

京都府立大学概要

令和 4 年 度



京都府公立大学法人

京都府立大学

Kyoto Prefectural University

京都府立大学の理念

京都府立大学は、2008年（平成20年）4月、京都府公立大学法人としての再出発に際して、学問の府としての歴史的・社会的使命を認識するとともに、京都府民に支えられる府民のための大学であることを自覚し、京都に根ざした魅力的で個性ある京都府立大学の創造に向けて、新たな飛躍をめざす。

- 1 京都府立大学は、京都府における知の拠点として、広く人文・社会・自然の諸分野にわたる真理を探究し、教育するとともに、その成果を健康と福祉の向上、産業の振興、文化の継承発展、国際社会の調和ある発展に活かすことを目的とする。
- 2 京都府立大学は、総合的な教養教育と体系的な専門教育によって、豊かな知性と教養、論理的思考力と高度な専門能力を備え、社会への責任感を持ち、地域社会と国際社会の持続可能な発展に貢献できる人材を育成する。
- 3 京都府立大学は、研究者の自由な発想と高い倫理性に基づく独創的な研究を展開し、日本及び世界の学界において最高水準の研究を推進するとともに、京都府を中心とする自然・社会・歴史・文化・産業に関する地域研究を総合的に展開する。
- 4 京都府立大学は、府民の生涯学習を支援し、府民、NPO、産業界、行政機関、大学等と協力・連携して地域調査研究活動を進め、地域貢献活動を積極的に展開する。
- 5 京都府立大学は、研究交流や留学生の受け入れ・派遣などの国際交流を活発に展開し、学術・文化の交流を通して、国際社会の相互理解に寄与する。
- 6 京都府立大学は、学問の自由な発展をめざすため、構成員ひとりひとりの人権を尊重し、自律的・自発的な探究を保障する。また、構成員には、大学自治の精神に基づいて、教育、研究、地域貢献及び大学運営への参加を求めるとともに、公立大学の社会的使命を果たすため効率的な大学運営を行う。さらに、大学の活動全般について自主的な点検と評価を行い、第三者による評価を受けて、それらの情報を公開することにより、府民に対する説明責任を果たす。

京都府公立大学法人

法人本部	〒602-0857	京都市上京区清和院口寺町東入中御霊町 410	TEL075-212-5406
京都府立医科大学	〒602-8566	京都市上京区河原町通広小路上る梶井町 465	TEL075-251-5111
京都府立大学	〒606-8522	京都市左京区下鴨半木町 1-5	TEL075-703-5101

目次

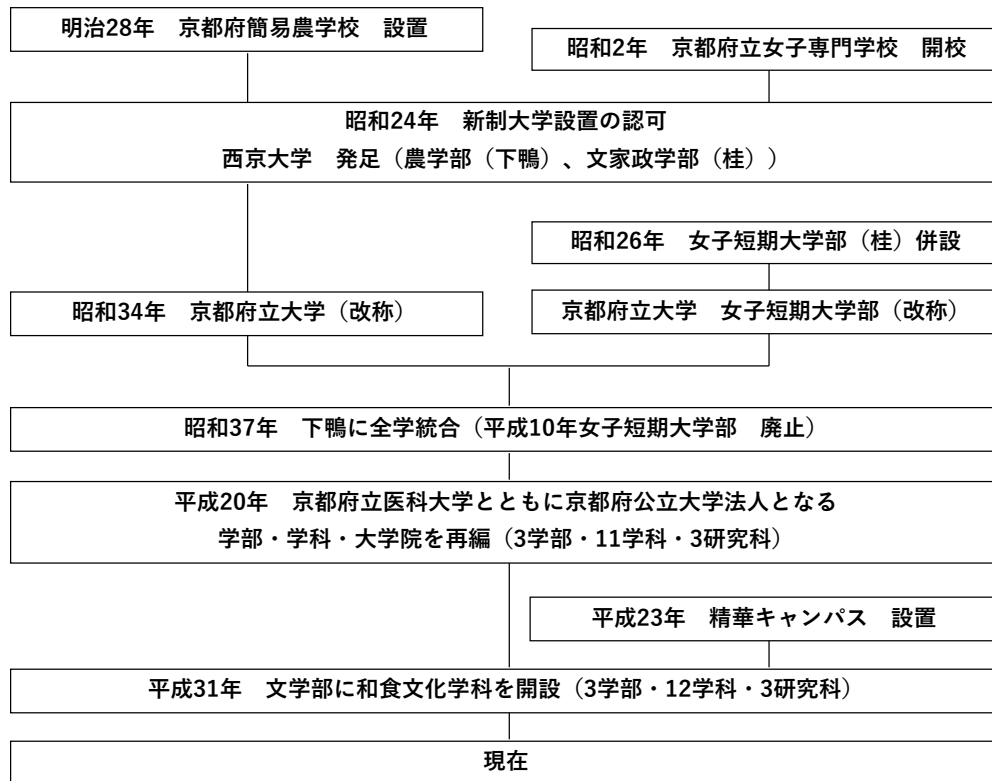
1	年表	1
2	沿革	2
3	組織	2
3-1	大学及び大学院	2
3-2	運営体制	3
4	教職員数（令和4年5月1日現在）	3
4-1	教員数	3
4-2	職員数	3
4-3	専任教員一人当たりの学生数（学部）	4
5	キャンパス概況	4
5-1	土地・建物の概況	4
5-2	施設概要	5
6	予算・決算等	8
6-1	令和4年度当初予算	8
6-2	令和4年度予算主要事項	8
6-3	決算の状況（推移）	9
7	教育	10
7-1	入試	10
7-2	学生	16
7-3	教育・学生支援	19
7-4	卒業・進路	20
8	研究	29
8-1	科学研究費補助金	29
8-2	産学官連携	30
9	本学の特色・特徴的な取組	34
9-1	地域連携	34
9-2	大学連携	36
9-3	和食文化研究	40
9-4	国際化の推進	41
10	学部・学科紹介	44
10-1	文学部	44
10-2	公共政策学部	44
10-3	生命環境学部	45
11	大学院紹介	46
11-1	文学研究科	46
11-2	公共政策学研究科	46
11-3	生命環境科学研究科	48
12	教員名簿等（令和4年6月1日現在）	51
12-1	文学部	51
12-2	公共政策学部	52
12-3	生命環境科学研究科（生命環境学部）	53
12-4	客員教授（五十音順）	54
12-5	特任教員（五十音順）	54
12-6	歴代学長	55
12-7	名誉教授	55

1 年表

- 明治 28. 4. 1. **京都府簡易農学校**を愛宕郡大宮村に設置
29. 9. 18. 葛野郡桂村へ移転
31. 4. 1. 京都府農学校と改称
34. 9. 25. 京都府立農学校と改称
37. 4. 1. 京都府立農林学校と改称
- 大正 7. 4. 愛宕郡下鴨村へ移転
12. 4. 1. 京都府立京都農林学校と改称
- 昭和 2. 4. 1. **京都府立女子専門学校**開校
8. 4. 右京区桂へ移転
19. 2. 22. 高等農林学校への昇格の認可を受ける
19. 4. 1. 京都府立高等農林学校開校
19. 7. 1. 京都府立農林専門学校と改称
24. 2. 学校教育法に基づき、**京都府立農林専門学校と京都府立女子専門学校を母体とした新制大学設置の認可**を受ける
24. 4. 1. **西京大学文家政学部**（右京区桂）及び**農学部**（左京区下鴨）の**2学部をもって発足**
26. 3. 31. 京都府立農林専門学校を廃止、京都府立女子専門学校を廃止
26. 4. 1. **西京大学女子短期大学部**（右京区桂）を併設
34. 5. 1. 創立10周年を記念して「**京都府立大学**」及び「**京都府立大学女子短期大学部**」と改称
37. 4. 18. **下鴨の現在地に全学統合**
45. 4. 1. 文学部、家政学部及び大学院（農学研究科）発足
48. 4. 1. 女子短期大学部生活経済科発足
52. 4. 1. 家政学部を生活科学部に改称
58. 4. 1. 大学院農学研究科博士課程（後期）発足
60. 4. 1. 文学部史学科発足
61. 4. 1. 大学院生活科学研究科発足
- 平成 2. 4. 1. 大学院文学研究科発足、女子短期大学部被服科を生活文化科に改称
4. 4. 1. 大学院文学研究科に英語英米文学専攻及び史学専攻の修士課程発足
5. 4. 1. 女子短期大学部英語科発足
7. 12. 開学100周年をむかえ「**京都府立大学将来計画**」を策定
9. 4. 1. 福祉社会学部、人間環境学部及び文学部国際文化学科発足。農学部農学科を生物生産科学科に、林学科を森林科学科に、農芸化学科を生物資源化学科に改称。大学院農学研究科生物生産環境学専攻及び生物機能学専攻発足。農学部附属農場の一部を精華町に移転・開設。
10. 3. 31. **女子短期大学部を廃止**
13. 4. 1. 大学院文学研究科に英語英米文学専攻及び史学専攻の博士課程（後期）、国際文化専攻修士課程発足。大学院福祉社会学研究科福祉社会学専攻修士課程発足。大学院生活科学研究科を人間環境科学研究科に改称し、同研究科に環境情報学専攻を増設、食環境科学専攻（食生活科学専攻を改称）及び生活環境科学専攻（住環境科学専攻を改称）の博士課程（後期）発足。
14. 4. 1. 大学院農学研究科を重点化（部局化）
15. 4. 1. 大学院文学研究科国文学中国文学専攻、福祉社会学研究科福祉社会学専攻及び人間環境科学研究科環境情報学専攻の博士課程（後期）発足
16. 3. 31. 生活科学部を廃止
20. 4. 1. 京都府立大学及び京都府立医科大学を設置・運営する**京都府公立大学法人設立**
文学部日本・中国文学科、欧米言語文化学科、歴史学科、公共政策学部公共政策学科、福祉社会学科、生命環境学部生命分子化学科、農学生命科学科、食保健学科、環境・情報科学科、環境デザイン学科、森林科学科発足。大学院公共政策研究科公共政策学専攻、福祉社会学専攻、生命環境科学研究科応用生命科学専攻、環境科学専攻発足。教養教育センター及び地域連携センターを設置
21. 7. 8. 京都政策研究センターを設置
23. 4. 1. **精華キャンパスを設置**
4. 27. 「京都府立大学精華キャンパス産学公連携研究拠点施設」開所
24. 4. 1. 副学長を設置
26. 9. 29. 京都府立医科大学、京都工芸繊維大学との**教養教育共同化施設「稲盛記念会館」竣工**
10. 1. **京都和食文化研究センターを設置**
29. 4. 1. 「地域連携センター」及び「京都政策研究センター」を統合し、新たに「京都地域未来創造センター」を設置
4. 28. **京都府立京都学・歴彩館に附属図書館を移転・オープン**
31. 4. 1. 和食の高等教育・研究機関として**文学部「和食文化学科」を開設**
- 令和 3. 4. 1. 新たに「産学公連携リエゾンオフィス」「AIデータサイエンス教育研究センター」「京の防災防疫安全安心研究センター」「新自然史科学創生センター」を設置

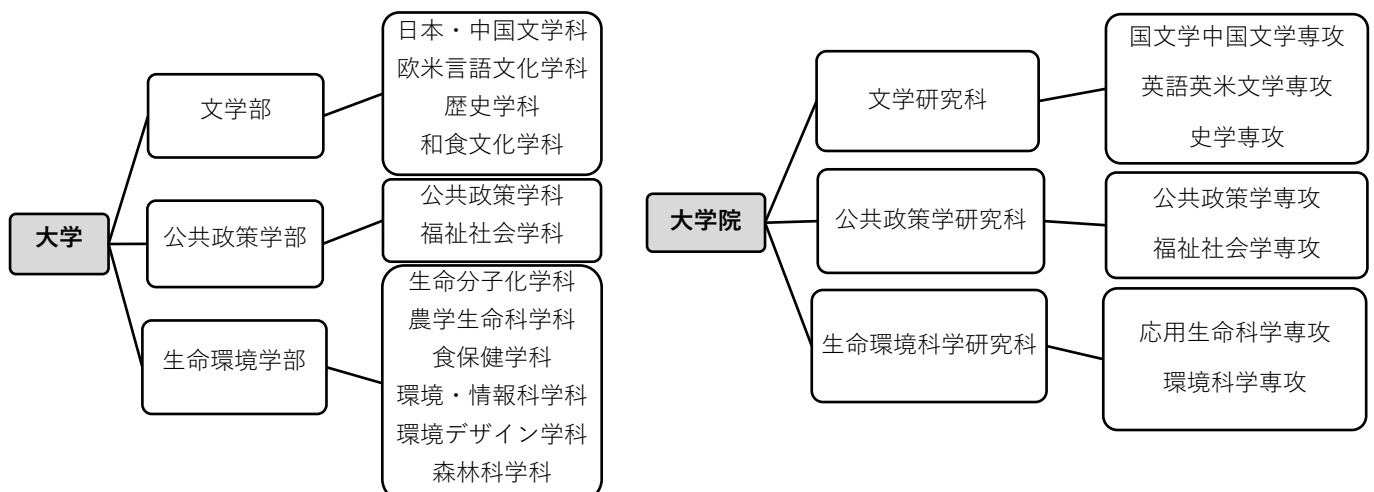
2 沿革

京都府立大学は、1895（明治 28）年に創立された京都府簡易農学校に源を発し、京都府立農林専門学校と京都府立女子専門学校を母体として、1949（昭和 24）年西京大学の名称で開設され、その後 1959（昭和 34）年に京都府立大学と改称され現在に至っている。

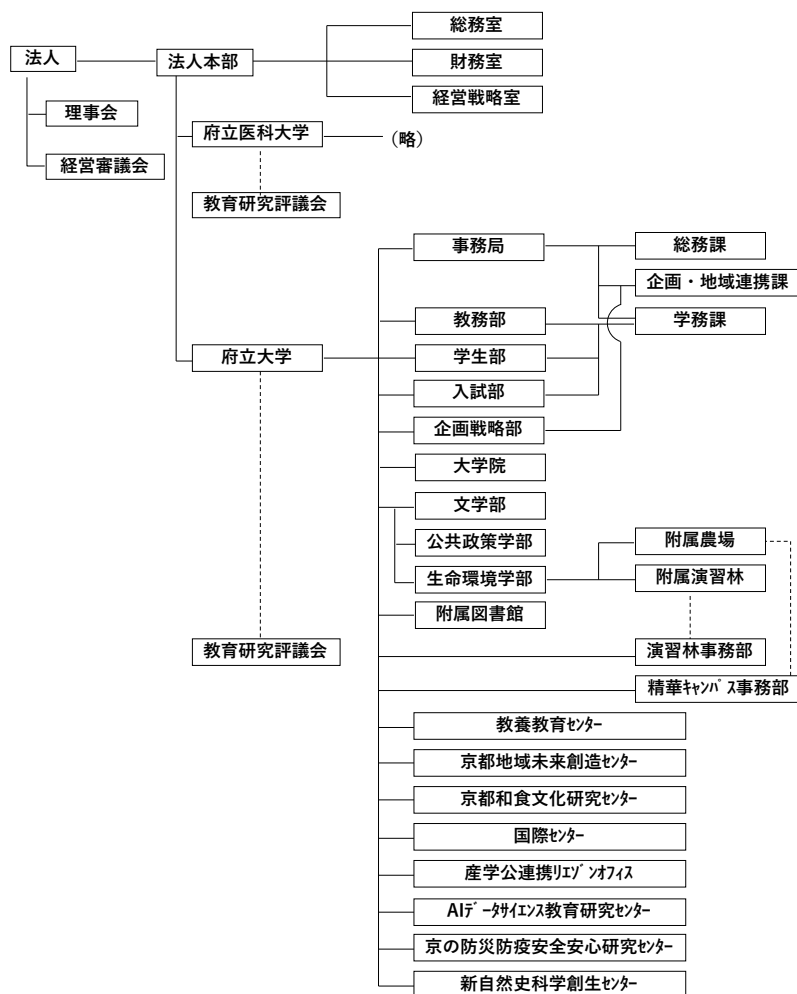


3 組織

3-1 大学及び大学院



3-2 運営体制



4 教職員数（令和4年5月1日現在）

4-1 教員数

（単位：人）

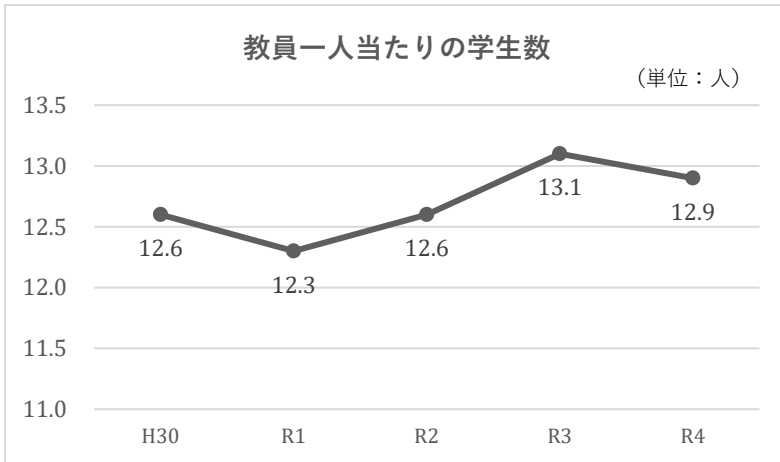
専任教員	教授	准教授	講師	助教	合計
文学部	22	18	—	—	40
公共政策学部	9	15	1	—	25
生命環境科学研究科（生命環境科学部）	38	35	14	3	90
合計	69	68	15	3	155

4-2 職員数

（単位：人）

職員	派遣職員	承継職員	事務職員	期限付職員	再雇用職員	合計
総務課	17	4	—	—	—	21
企画・地域連携課	9	—	—	1	—	10
学務課	11	—	—	—	5	16
精華キャンパス事務部（生命環境学部附属農場）	2	3	—	—	1	6
生命環境学部附属演習林	1	—	—	—	3	4
附属図書館	1	—	2	—	—	3
合計	41	7	2	1	9	60

4-3 専任教員一人当たりの学生数（学部）



5 キャンパス概況

5-1 土地・建物の概況

(単位：平方メートル)

区 分		土 地 (敷地面積)	建 物 (延床面積)
(1) 下鴨 キャン パス	本館・合同講義室棟	74,798.39	5,050.38
	1 号 館		3,343.38
	2 号 館		3,539.14
	3 号 館		4,284.96
	5 号 館		3,456.69
	6 号 館		1,980.28
	7 号 館		2,487.50
	a. 教養教育共同化施設 「稲盛記念会館」		9,088.73
	京都府職員研修・ 研究支援センター		267.03
	体 育 館		3,509.48
	大 学 会 館		941.11
	b. 京都府立 文 学 部 京都学歴彩館 附属図書館		3,293.30
	そ の 他 建 物		3,079.60
	運 動 場		5,377.98
仮 設 体 育 館	103.24		
小 計	29,687.08	675.21	
	104,485.47 (約 10.4ha)	50,478.01	
(2)精華 キャンパス	生命環境学部附属農場 (西エリア)	75,707.00	7,190.40
	産学公連携研究拠点施設 (東エリア)	70,496.03	6,191.63
	小計	146,203.03 (約 14.6ha)	13,382.03
(3) 附属演習林	鷹 峯 演 習 林	74,377.00	
	大 枝 演 習 林	1,163,215.00	
	梅ヶ畑演習林	886,912.00	
	大野演習林	670,529.00 (地上権)	755.89
	久多演習林	398,133.00	26.09
	日吉演習林	26,741.00	
	小計	2,549,378.00 (地上権 670,529.00)	781.98
合 計	2,800,066.50 (地上権 670,529.00)	64,642.02	

5-2 施設概要

(1) 下鴨キャンパス

● ロケーション

京都市域のほぼ中央、京都市街地の北部に所在

● アクセス

キャンパス最寄りに地下鉄北山駅（徒歩約7分）

（北山駅からの主要ターミナルへのアクセス）

国際会館駅 4分

四条駅 12分

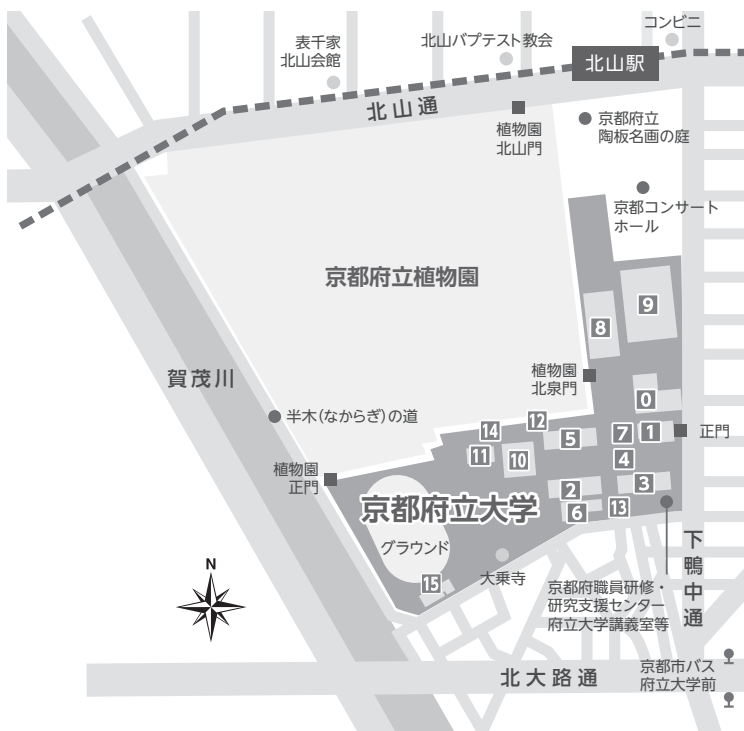
京都駅 16分

● 北山文化環境ゾーン

周辺には、府立植物園（大正13年開園）、府立陶板名画の庭（平成6年完成）、京都コンサートホール（平成7年完成）、府立京都学・歴史館（平成28年完成）などの施設が集積し、賀茂川などの豊かな自然環境にも恵まれていることから、京都府では下鴨キャンパスも含めた一帯（38ha）を「府民が憩い、やすらぐ場」として、また、文化・環境・学術の交流・発信拠点となるよう順次整備を進めており、令和元年度末にはプロムナードが整備された。

● 新施設整備

平成26年には教養教育共同化施設（稲盛記念会館）が、平成29年には京都府立京都学・歴史館に附属図書館がオープンし、また、キャンパスと植物園を直結する新たな入場ゲート（北山門）が設けられた。このように、キャンパス北側で施設整備が進む一方、南側には、昭和30年代に整備された講義棟があり、施設老朽化への対応が大きな課題となっていることから、令和4年3月には京都府立大学整備構想を策定し、キャンパス整備に向けた検討を進めている。



0 本館・合同講義室棟

講義室
学生部・教務部(学務課)
学生相談室 医務室
キャリアサポートセンター
事務局(総務課)
食堂 売店

1 1号館

生命環境学部

2 2号館

講義室
公共政策学部
生命環境学部

3 3号館

生命環境学部

4 学舎

生命環境学部

5 5号館

生命環境学部

6 6号館

講義室
生命環境学部
附属演習林本部

7 7号館

文学部
ラーニング・commons

8 教養教育共同化施設

(稲盛記念会館)
講義室
事務局(企画・地域連携課)
レストラン

9 京都府立京都学・歴史館

文学部(3・4階)
附属図書館(2階)

10 体育館

11 第2体育館

12 学生会館

13 国際交流施設

14 クラブボックス

15 仮説体育館

a 教養教育共同化施設「稲盛記念会館」

構造・規模	鉄筋コンクリート造り	陸屋根	地下1階、地上3階建て	延床面積	9,088.73 m ²
施設概要	講義室17室(200人~30人)、研究ゼミ室3室、自習室2室、視聴覚室、レストラン、事務室、京都府立医科大学研究室・実習室等				
特長	三大学(京都府立大学、京都府立医科大学、京都工芸繊維大学)の学生と一緒に学ぶ豊かな学習空間 学生・教員間の交流の場、府民にも開かれたレストランなど 自然換気、自然採光、太陽光発電パネル設置など環境に配慮				
工事概要	総工費	約28億円			
	工期	平成24年度~26年度			
	供用開始	平成26年9月			

b 京都府立京都学・歴史館

構造・規模	鉄骨造	地上4階、地下2階	延床面積	23,933.22 m ²
施設概要	3・4F 府立大学文学部実習室・演習室・教員研究室 2F 京都学歴史館図書資料閲覧室、府立大学・府立医科大学附属図書館 1F 大ホール、小ホール、研究室、自習室、京都学ラウンジ、事務室等 BF 閉架図書室・収蔵庫等			
特長	旧京都府立総合資料館と府立大学の文学部・図書館等を合築 世界とつながる京都学の研究・交流・発信拠点として整備 京の街並みをイメージした重なり合う屋根鉄骨を菱格子に組んだ空間、ガラス壁などで構成した光溢れる開放感に満ちた建物 太陽光、地中熱、雨水利用など環境に配慮			
工事概要	総工費	約95億円		
	工期	平成25年度~28年度		
	供用開始	1F(一部)	平成28年12月23日	
		1・2F(全部)	平成29年4月28日	
		3・4F	平成29年10月1日	

(2) 精華キャンパス

● ロケーション

精華町北西部(関西文化学術研究都市(南田辺・狛田地区))に立地
周辺を山林・里山に囲まれた自然豊かな環境、南境界に隣接して自衛隊祝園分屯地

● 生命環境学部附属農場・京都府生物資源研究センター(西エリア)

平成9年開設

3.5haの圃場(畑、水田、果樹園)、ガラス温室等の附属施設

農場実習(教育)や植物、園芸、細胞、遺伝子工学等の研究を展開

● 産学公連携拠点施設(東エリア)

平成24年開設

2棟のインキュベーションラボ(植物系実験研究棟・動物系実験研究棟)、芝生広場・展望台、エコタイプ次世代植物工場

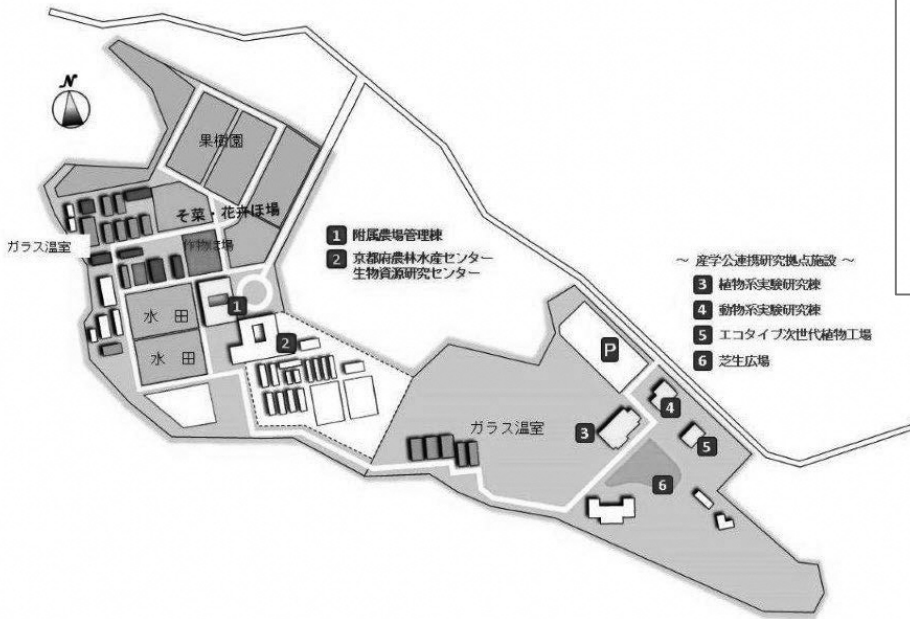
① インキュベーションラボ

ラボ内の13の研究室はベンチャー企業(ダチョウ抗体を用いた新規有用素材の開発、植物工場・高機能栽培システム開発など)に有償貸付

② エコタイプ次世代植物工場

電力自給と水の循環再利用を可能とするパイロット施設として整備

養液による健康機能性等の高い高品質作物栽培技術の開発等研究を推進



(3) 附属演習林 (大学の森)

- **概要**

120年の歴史

京都府内に6カ所(大野・大枝・鷹峯・久多・日吉・梅ヶ畑)設置

- **特徴**

スギ・ヒノキの人工林、ブナなどの天然林等

森林科学科学生の野外実習や学生・教員の研究の他、「演習林野外セミナー」等の府民対象の公開講座も実施

大野演習林

大野学舎には講義室、宿泊室、食堂、風呂、薪ストーブ等を備えている。学舎周辺には炭焼機、製材機、油圧薪割機、木材チップパーなどを設置し、森林資源の利用などの実習を行っている。大正初期に植栽された約100年生のスギ、ヒノキ林が残っており、樹高40mを超える大径木も見ることができる。

日吉演習林

樹齢50年を越えるコナラ、アベマキが優占する薪炭林跡の落葉広葉樹林。実習ではそれらを伐採した後でコナラ等を植栽し、伐採した材は大野演習林で炭焼きや薪として利用し、学生はカーボンニュートラルな木材利用を経験している。

久多演習林

京都市左京区の北端に位置し、西尾根は京都大学芦生研究林と背中合わせの分水嶺。天然生のスギは伐採されなかったため、現在でも多くのスギの巨木を見る。尾根部にブナ、溪谷ではトチノキ、サワグルミ、カツラなどの溪畔林が見られる。ニッコウキスゲの分布する南西限に位置し植物地理学的にも重要である。平成28年には京都丹波高原国定公園に指定されている。

鷹峯演習林

下鴨キャンパスから車で約15分で到着する最も近い演習林。スギ、ヒノキ等の人工林が占め、一部のモウソウチク林では、タケの様々な利用技術やバイオマス利用に関して研究が行なわれている。

梅ヶ畑演習林

本学の前身である京都府立農林学校卒業生から寄贈された演習林。北山林業地にあり谷筋には北山丸太仕立ての林分が多く、中腹から尾根にかけてはタムシバ、コナラなどの広葉樹二次林が見られる。

大枝演習林

1902年に設置された最も歴史のある演習林であり、国内でも東京大学、北海道大学に次いで3番目に古い。一部を「洛西散策の森」として、一般府民に公開している。スギ、ヒノキの人工林と、アカマツ、アベマキ、コナラなどの二次林で構成される。また、中国産のメタセコイア、気根を地面から出す北米産のヌマスギ、その他セコイア、ドイツトウヒなどの外国産樹種が見本林として植栽されている。

6 予算・決算等

6-1 令和4年度当初予算

(単位：千円)

科目	金額	説明
支 出		
業務費	1,175,880	
教育経費	178,921	学生・院生教材費、附属農場・附属演習林運営費、国際化推進事業費等
研究経費	224,674	教員の実験研究経費、地域貢献型特別研究費(ACTR)、精華キャンパス運営費等
教育研究支援経費	170,703	附属図書館運営費、共同施設費(学内LAN等)等
一般管理費	502,582	大学運営費、施設維持管理経費、老朽化対策事業費等
受託研究及び寄附金等事業費	99,000	試験研究受託事業等
人件費	2,784,448	教職員給与費等
合 計	3,960,328	
収 入		
運営費交付金	2,468,328	
自己収入	1,253,000	
学生納付金	1,211,467	授業料・聴講料、入学料及び入学考査料
雑入	41,533	農場・演習林生産物売払収入等
補助金	0	
長期借入金	140,000	大学施設整備に係る借入
受託研究及び寄附金等収入	99,000	試験研究受託事業収入等
合 計	3,960,328	

6-2 令和4年度予算主要事項

- 地域貢献型特別研究費(ACTR) 継続 30,000千円
(運営費交付金 10/10) (③30,000千円)
府内各地域における様々な課題について、市町村、住民団体等と共同して課題解決に向けた調査・研究を行い、その調査研究成果を広く情報発信
- 新生・府立大学構想推進費 臨時 13,000千円
(運営費交付金 10/10)
新生・府立大学の実現に向けた新学部・学科設置準備の本格化
- 仮設体育館整備費 臨時 40,000千円
(府借入金 10/10) (③16,000千円)
安心安全な教育・課外活動の環境確保のため、令和3年度に整備した仮設体育館の2年目リース料
- 府立大学老朽化等対策事業費 臨時 100,000千円
(府借入金 10/10) (③90,000千円)
老朽化の著しい施設・設備の緊急対策(1号館空調設備の更新等)
- 新型コロナウイルス感染症特別対策費 臨時 102,000千円
(運営費交付金 10/10)
新型コロナウイルスへの対応が長期化する中で、プレハブ建物の整備による部屋数不足の解消や、トイレ改修による衛生環境の改善等を実施

6-3 決算の状況（推移）

（単位：千円）

支出 経費区分	H29 決算額	H30 決算額	R1 決算額	R2 決算額	R3 決算額
業務費	3,636,625	3,509,165	3,789,233	3,593,141	3,760,387
教育経費					
学生・院生教材費、附属農場・演習林経費等	319,410	288,688	288,822	356,766	382,069
研究経費					
教員研究費、ACTR、精華キャンパス運営費他、国の研究費補助等	261,845	287,934	284,942	266,206	295,346
教育研究支援経費					
図書館運営費、学内LAN維持管理費等	107,483	115,099	130,414	103,134	106,494
受託研究費等（外部資金）	136,872	114,318	104,069	102,249	191,214
受託事業費等（外部資金）	15,225	13,043	7,552	5,495	7,591
人件費	2,795,790	2,690,083	2,973,434	2,759,291	2,777,673
教員人件費	(1,999,709)	(1,960,288)	(2,245,283)	(2,008,156)	(1,967,990)
職員人件費	(796,081)	(729,795)	(728,151)	(751,135)	(809,683)
一般管理費	299,471	287,021	258,335	247,548	306,099
財務費用	358	291	1,033	1,007	1,138
経常経費 総計 (ア)	3,936,454	3,796,477	4,048,601	3,841,696	4,067,624
臨時損失 (イ)	0	0	0	8,826	96,143
収入 収益区分	H29 決算額	H30 決算額	R1 決算額	R2 決算額	R3 決算額
運営費交付金収益	2,325,738	2,206,561	2,426,330	2,352,580	2,395,585
授業料収益	1,039,456	1,038,865	1,078,305	1,053,096	1,088,782
入学金収益	133,217	138,039	138,659	137,813	150,842
検定料収益	39,552	41,118	40,785	36,806	43,566
受託研究等収益	136,890	114,311	104,086	101,312	187,813
国、地方公共団体受託	(89,821)	(55,920)	(42,105)	(63,212)	(150,607)
民間受託	(47,069)	(58,391)	(61,981)	(38,100)	(37,206)
受託事業等収益	15,225	13,043	7,552	5,495	7,591
寄附金収益	33,349	50,526	48,581	39,533	52,094
補助金等収益	14,815	10,647	14,796	15,277	64,277
雑益	99,597	86,601	86,494	62,905	70,966
資産見返戻入(運営費交付金等)	104,903	103,786	104,151	101,786	106,536
経常収益総計 (A)	3,942,742	3,803,497	4,049,739	3,906,603	4,168,052
臨時利益 (B)	0	0	0	8,826	0
利益額(収入－支出)	H29 決算額	H30 決算額	R1 決算額	R2 決算額	R3 決算額
経常利益 (A－ア)	6,288	7,020	1,138	64,907	100,428
臨時損失 (B－イ)	0	0	0	0	▲96,143
目的積立金取崩額	0	0	0	0	0
府大セグメント 当期総利益	6,288	7,020	1,138	64,907	4,285
大学法人全体 当期総損益	▲129,068	▲611,031	▲1,802,710	▲829,008	▲380,742

*令和3年度決算額については、京都府知事承認前のもの

7 教育

7-1 入試

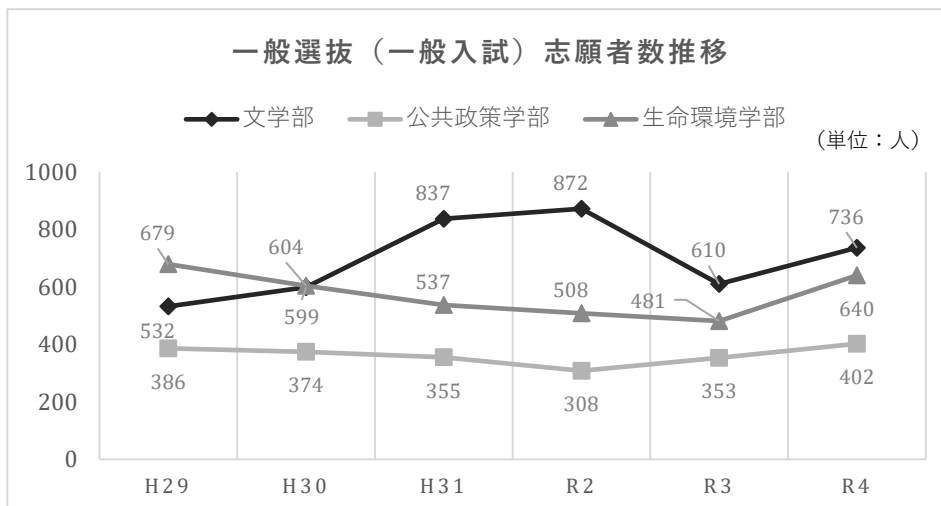
(1) 一般選抜

a 一般選抜（一般入試）実施状況（過去6年間 平成29-令和4年度）（単位：人・倍）

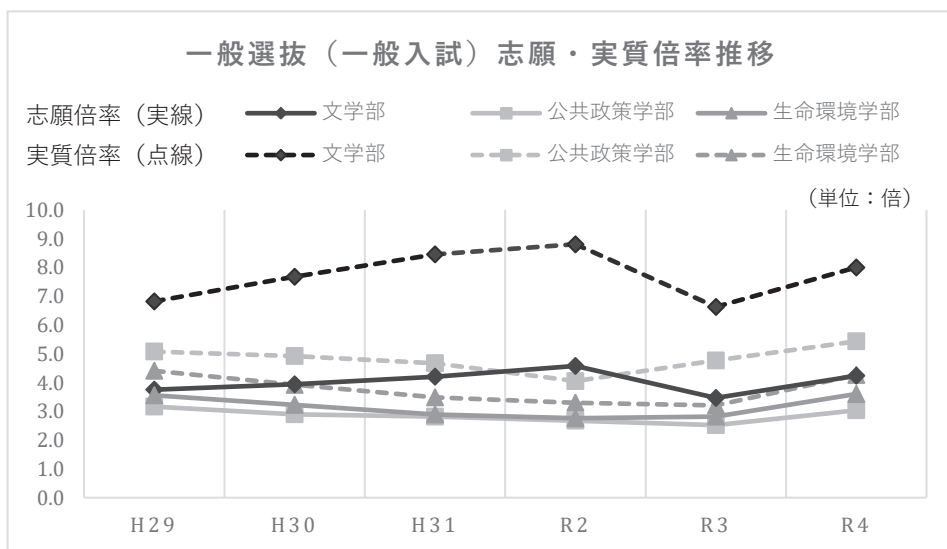
学部	年度	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	志願倍率	実質倍率	入学者数
文学部	H29	78	532	379	101	6.8	3.8	84
	H30	78	599	453	115	7.7	3.9	87
	H31	99	837	593	141	8.5	4.2	116
	R2	99	872	618	135	8.8	4.6	115
	R3	92	610	423	122	6.6	3.5	99
	R4	92	736	500	118	8.0	4.2	109
公共政策学部	H29	76	386	291	92	5.1	3.2	82
	H30	76	374	281	97	4.9	2.9	79
	H31	76	355	245	87	4.7	2.8	84
	R2	76	308	230	86	4.1	2.7	77
	R3	74	353	237	94	4.8	2.5	81
	R4	74	402	258	85	5.4	3.0	80
生命環境学部	H29	154	679	644	181	4.4	3.6	169
	H30	154	604	574	178	3.9	3.2	160
	H31	154	537	506	175	3.5	2.9	164
	R2	154	508	475	172	3.3	2.8	158
	R3	150	481	468	166	3.2	2.8	153
	R4	150	640	620	172	4.3	3.6	161
合計	H29	308	1,597	1,314	374	5.2	3.5	335
	H30	308	1,577	1,308	390	5.1	3.4	326
	H31	329	1,729	1,344	403	5.3	3.3	364
	R2	329	1,688	1,323	393	5.1	3.4	350
	R3	316	1,444	1,128	382	4.6	3.0	333
	R4	316	1,778	1,378	375	5.6	3.7	350

*①志願倍率は志願者数／募集人員 ②実質倍率は受験者数／合格者数 ③留学生は未計上

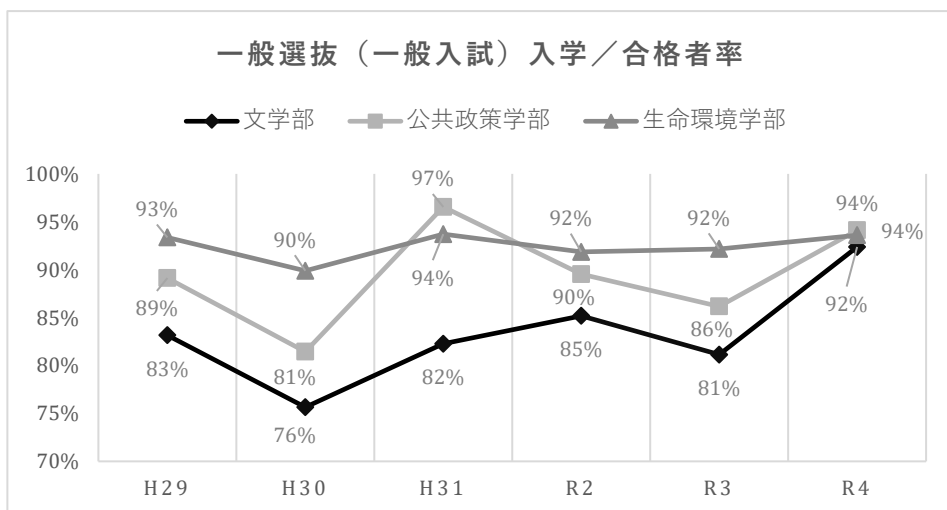
b 志願者数推移



c 志願・実質倍率推移



d 入学／合格者率（合格者のうち入学者の比率）



e 一般選抜合格者成績（令和4年度）

日程	学部	学科	最高点	最低点	平均点	配点
前期	文学部	日中	1168.1	1018.1	1086.0	1470.0
		欧米	1168.3	967.7	1040.6	1470.0
		歴史	1346.5	1202.4	1241.3	1600.0
		和食	1128.6	981.2	1021.7	1400.0
	公共政策学部	公共	848.1	700.3	731.2	1050.0
		福祉	823.8	678.3	733.6	1050.0
	生命環境学部	分子	1302.2	1035.6	1095.9	1800.0
		農生	1000.1	894.6	933.4	1500.0
		食保	1151.5	923.2	987.7	1600.0
		情報	950.2	688.8	773.0	1470.0
		環テ	823.0	714.8	748.0	1160.0
		森林	1171.1	869.3	935.7	1600.0

日程	学部	学科	最高点	最低点	平均点	配点
後期	文学部	日中	689.6	676.4	682.6	850.0
		欧米	588.4	574.4	580.2	700.0
		歴史	767.6	733.4	752.2	850.0
		和食	1200.4	1058.2	1096.0	1500.0
	公共政策学部	公共	789.4	739.6	764.2	1050.0
		福祉	757.8	679.0	719.8	1050.0
	生命環境学部	分子	907.6	794.9	830.7	1100.0
		農生	490.2	471.0	480.6	640.0
		森林	680.6	515.4	563.4	1000.0

(2) 学校推薦型選抜

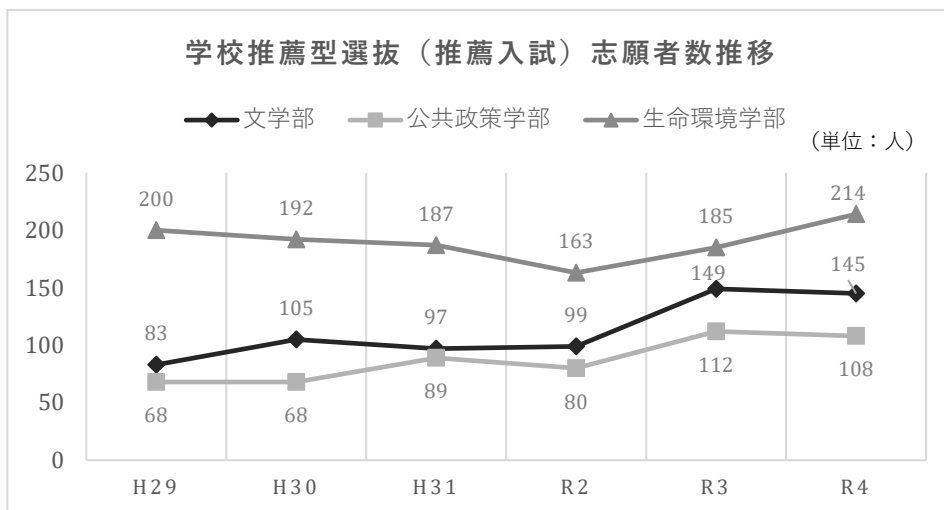
a 学校推薦型選抜（推薦入試）実施状況（過去6年間 平成29-令和4年度）

（単位：人・倍）

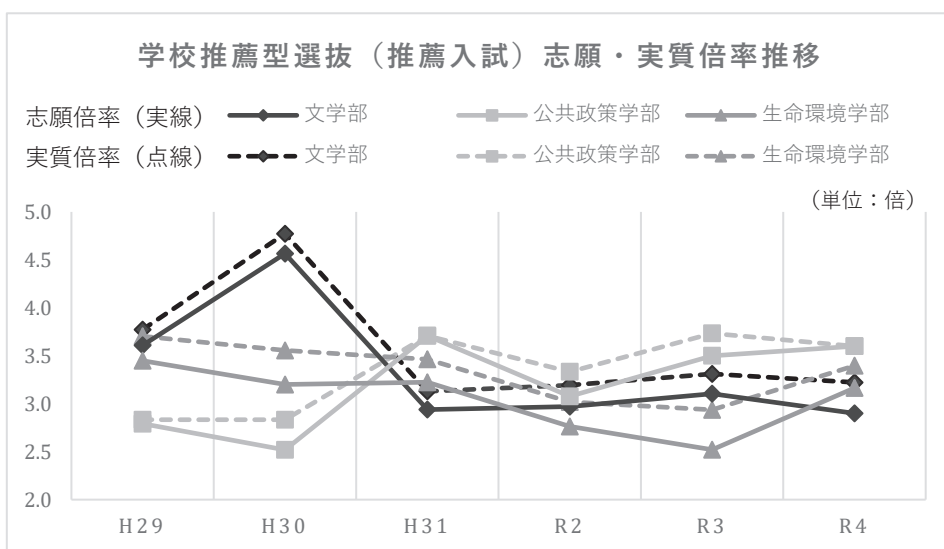
学部	年度	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	志願倍率	実質倍率	入学者数
文学部	H29	22	83	83	23	3.8	3.6	23
	H30	22	105	105	23	4.8	4.6	23
	H31	31	97	97	33	3.1	2.9	33
	R2	31	99	98	33	3.2	3.0	33
	R3	45	149	149	48	3.3	3.1	48
	R4	45	145	145	50	3.2	2.9	50
公共政策学部	H29	24	68	67	24	2.8	2.8	24
	H30	24	68	68	27	2.8	2.5	27
	H31	24	89	89	24	3.7	3.7	24
	R2	24	80	80	26	3.3	3.1	26
	R3	30	112	112	32	3.7	3.5	32
	R4	30	108	108	30	3.6	3.6	30
生命環境学部	H29	54	200	200	58	3.7	3.4	58
	H30	54	192	192	60	3.6	3.2	60
	H31	54	187	187	58	3.5	3.2	58
	R2	54	163	163	59	3.0	2.8	59
	R3	63	185	184	73	2.9	2.5	73
	R4	63	214	212	67	3.4	3.2	67
合計	H29	100	351	350	105	3.5	3.3	105
	H30	100	365	365	110	3.7	3.3	110
	H31	109	373	373	115	3.4	3.2	115
	R2	109	342	341	118	3.1	2.9	118
	R3	138	446	445	153	3.2	2.9	153
	R4	138	467	465	147	3.4	3.2	147

*①志願倍率は志願者数／募集人員 ②実質倍率は受験者数／合格者数

b 志願者数推移



c 志願・実質倍率推移



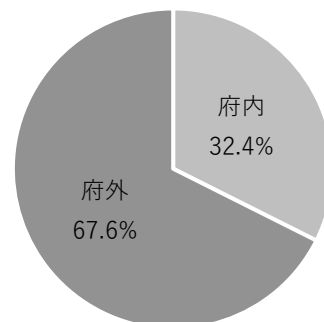
(3) 入学者内訳（学部 令和4年度）

a 入試区分別

(単位：人)

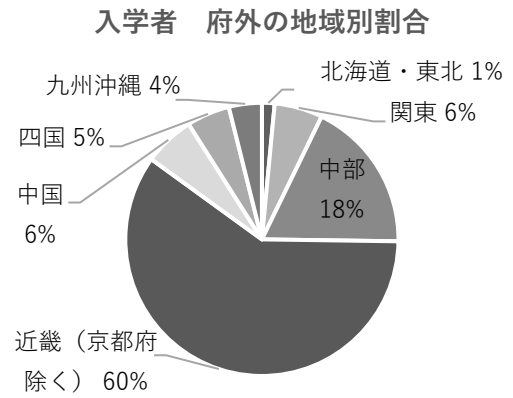
学部	前期	後期	推薦	合計	入学定員
文学部	89	20	50	159	137
公共政策学部	62	18	30	110	104
生命環境学部	149	12	67	228	213
合計	300	50	147	497	454

入学者 府内・府外の割合



b 高校所在地別 (単位：人)

地域名	入学者
京都府	161
北海道・東北	5
関東	19
中部	60
近畿（京都府除く）	199
中国	20
四国	17
九州沖縄	13
合 計	494



(4) 大学院入学者選抜

a 大学院入学者選抜実施状況（過去5年間 平成30-令和4年度）

（単位：人）

研究科	課程	年度	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	留学生選抜	入学者数
文学	博士前期	H30	18	20	20	15	1	12
		H31	18	16	16	13	3	14
		R2	18	25	24	19	4	19
		R3	18	20	18	15	0	11
		R4	18	24	24	17	1	17
	博士後期	H30	7	5	5	5	0	4
		H31	7	9	8	6	0	4
		R2	7	5	5	5	0	5
		R3	7	5	5	4	1	5
		R4	7	5	5	5	1	6
公共政策学	博士前期	H30	12	11	11	6	0	6
		H31	12	5	5	4	1	4
		R2	12	3	3	2	1	3
		R3	12	8	7	7	0	6
		R4	12	10	10	6	0	5
	博士後期	H30	4	2	2	1	0	1
		H31	4	2	1	0	0	0
		R2	4	3	3	1	0	1
		R3	4	2	2	1	0	0
		R4	4	2	2	1	0	1
生命環境科学	博士前期	H30	85	108	104	93	1	79
		H31	85	85	85	74	1	58
		R2	85	92	85	74	5	69
		R3	85	101	97	87	2	78
		R4	85	124	121	99	2	93
	博士後期	H30	15	4	4	4	1	5
		H31	15	4	4	4	0	4
		R2	15	9	9	8	1	9
		R3	15	9	9	8	0	8
		R4	15	8	8	8	0	8
合計	博士前期	H30	115	139	135	114	2	97
		H31	115	106	106	91	5	76
		R2	115	120	112	95	10	91
		R3	115	129	122	109	2	95
		R4	115	158	155	122	3	115
	博士後期	H30	26	11	11	10	1	10
		H31	26	15	13	10	0	8
		R2	26	17	17	14	1	15
		R3	26	16	16	13	1	13
		R4	26	15	15	14	1	15

*ダブルディグリー制度による留学生除く

b 大学院入学者状況（令和4年度）

（単位：人）

研究科	出身校別				入学者数	募集人員	
	本学	国公	私立	他大学出身者割合			
博士前期	文学	12	3	1	25%	16	18
	公共政策学	2	1	2	60%	5	12
	生命環境科学	80	5	6	12%	91	85
	合計	94	9	9	16%	112	115
博士後期	文学	5	0	0	0%	5	7
	公共政策学	1	0	0	0%	1	4
	生命環境科学	7	0	1	13%	8	15
	合計	13	0	1	7%	14	26

*留学生特別選考による入学者除く

(5) 入学定員充足状況（平成30-令和4年度）

学部・研究科	入学定員（人）					入学者数（人）					定員充足率（倍）					
	30	31	2	3	4	30	31	2	3	4	30	31	2	3	4	
学士課程	文学部	100	130	130	137	137	110	149	148	147	159	1.10	1.15	1.14	1.07	1.16
	公共政策学部	100	100	100	104	104	106	109	103	113	110	1.06	1.08	1.03	1.09	1.06
	生命環境学部	208	208	208	213	213	220	222	217	226	228	1.06	1.07	1.04	1.06	1.07
	合計	408	438	438	454	454	436	480	468	486	497	1.07	1.09	1.07	1.07	1.09
博士前期	文学	18	18	18	18	18	12	14	19	11	17	0.67	0.78	1.06	0.61	0.94
	公共政策学	12	12	12	12	12	6	4	3	6	5	0.50	0.33	0.25	0.50	0.42
	生命環境科学	85	85	85	85	85	79	58	69	78	93	0.93	0.68	0.81	0.92	1.09
	合計	115	115	115	115	115	97	76	91	95	115	0.84	0.66	0.79	0.83	1.00
博士後期	文学	7	7	7	7	7	4	4	5	5	6	0.57	0.57	0.71	0.71	0.86
	公共政策学	4	4	4	4	4	1	0	1	0	1	0.25	0	0.25	0	0.25
	生命環境科学	15	15	15	15	15	5	4	9	8	8	0.33	0.27	0.60	0.53	0.53
	合計	26	26	26	26	26	10	8	15	13	15	0.38	0.31	0.58	0.50	0.58

7-2 学生

(1) 学生数（学部 令和4年5月1日現在）

（単位：人）

学部	学科	1回生			2回生			3回生			4回生			合計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
文学部	日本・中国文学科	5	32	37	11	23	34	8	28	36	11	28	39	35	111	146
	欧米言語文化学科	14	26	40	9	25	34	9	26	35	12	33	45	44	110	154
	歴史学科	25	24	49	31	15	46	19	25	44	28	27	55	103	91	194
	和食文化学	6	27	33	6	27	33	4	29	33	5	31	36	21	114	135
	小計	50	109	159	57	90	147	40	108	148	56	119	175	203	426	629

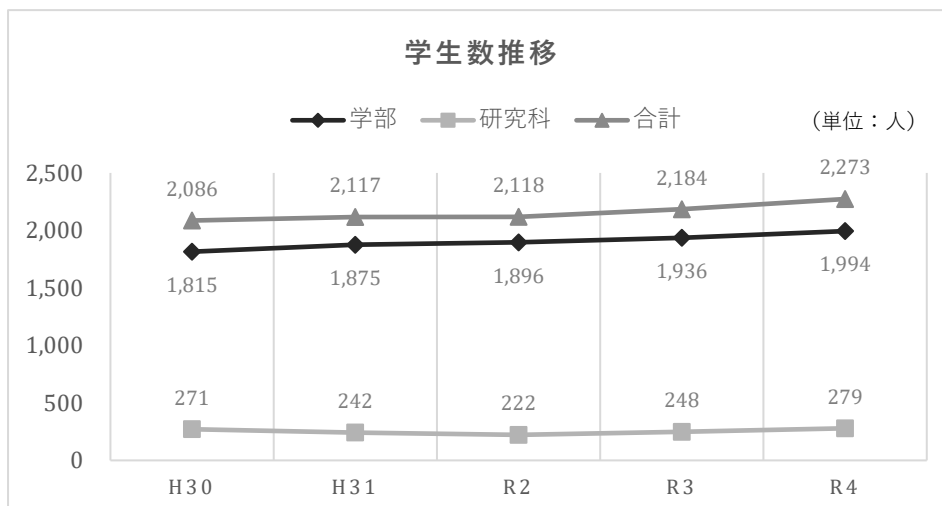
学部	学科	1回生			2回生			3回生			4回生			合計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
公共政策学部	公共政策学	23	31	54	27	30	57	29	20	49	38	25	63	117	106	223
	福祉社会学	10	47	57	9	47	56	17	34	51	13	50	63	49	178	227
	小計	33	78	111	36	77	113	46	54	100	51	75	126	166	284	450
生命環境学部	生命分子化学	12	23	35	16	22	38	16	19	35	13	22	35	57	86	143
	農学生命科学	24	27	51	22	33	55	19	29	48	21	32	53	86	121	207
	食保健学	2	25	27	0	26	26	2	25	27	0	26	26	4	102	106
	環境・情報科学	18	13	31	18	9	27	15	12	27	20	11	31	71	45	116
	環境デザイン学	17	29	46	13	31	44	21	22	43	25	24	49	76	106	182
	森林科学	21	17	38	29	16	45	22	12	34	24	20	44	96	65	161
	小計	94	134	228	98	137	235	95	119	214	103	135	238	390	525	915
学部計	177	321	498	191	304	495	181	281	462	210	329	539	759	1,235	1,994	

(2) 学生数 (大学院 令和4年5月1日現在)

(単位:人)

専攻	男	女	博士前期	博士後期	合計
国文学中国文学専攻	5	13	9	9	18
英語英米文学専攻	2	2	2	2	4
史学専攻	17	19	21	15	36
公共政策学専攻	5	1	5	1	6
福祉社会学専攻	6	6	9	3	12
応用生命科学専攻	69	67	117	19	136
環境科学専攻	41	26	58	9	67
合計	145	134	221	58	279

(3) 学生数推移



(4) 退学率（学部 平成 28-令和 3 年度）

学部	H28	H29	H30	R1	R2	R3
文学部	1.5%	1.8%	1.0%	1.4%	1.3%	0.9%
公共政策学部	0.5%	0.6%	0.2%	0.7%	0.4%	0.9%
生命環境学部	1.3%	1.2%	1.4%	1.6%	0.9%	1.2%
全体	1.2%	1.2%	1.0%	1.3%	0.9%	1.0%

(5) 標準修業年限卒業率（学部 平成 28-令和 3 年度）

学部	H28	H29	H30	R1	R2	R3
文学部	79.0%	84.1%	85.4%	88.3%	83.2%	87.3%
公共政策学部	90.0%	92.3%	92.5%	89.6%	94.3%	88.7%
生命環境学部	90.0%	90.0%	91.0%	88.6%	88.5%	86.8%
全体	87.5%	89.1%	90.0%	88.8%	88.6%	87.4%

*留年、休学、退学せずに卒業した学生の割合（例：令和 3 年度 R3 年度未卒業者／H30 年度入学者）

(6) 留学生数（令和 4 年 5 月 1 日現在）

a 留学生数（学部生・大学院生）

（単位：人）

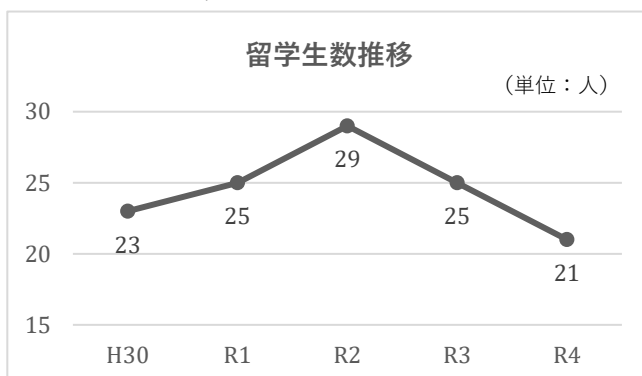
区 分		H30	R1	R2	R3	R4
学 部	文学部	6	5	5	3	3
	公共政策学部	2	3	2	1	1
	生命環境学部	1	1	0	0	0
	合計	9	9	7	4	4
大 学 院	文学研究科	7	8	10	10	9
	公共政策学研究科	0	1	2	2	1
	生命環境科学研究科	7	7	10	9	7
	合計	14	16	22	21	17

b 国別

（単位：人）

国 名	H30	R1	R2	R3	R4
中国	20	22	27	22	19
バングラデシュ	1	1	0	0	0
フランス	1	2	1	1	1
台湾	1	0	0	0	0
ブラジル	0	0	1	2	1
合 計	23	25	29	25	21

c 留学生数の推移



(7) 学生の海外派遣数

(単位：人)

国名	H29	H30	R1	R2	R3
中国	20	22	20	0	0
韓国	2	8	5	0	0
インドネシア	0	0	0	0	0
タイ	4	0	11	0	0
ベトナム	1	1	0	0	0
フィリピン	0	2	0	0	0
フランス	1	0	0	0	0
ドイツ	31	17	10	0	6
オーストラリア	7	17	14	0	0
米国	1	0	1	0	0
カナダ	0	2	2	0	0
ガーナ	0	1	0	0	0
合計	67	70	63	0	6

*協定締結大学及び大学のプログラムで留学している者に限る

7-3 教育・学生支援

(1) 授業料減免制度

教育の機会均等を図ることを目的に、学業成績が良好であるにもかかわらず経済的な理由により修学が困難な学生に対して、授業料を免除する制度を設けている。所定の基準により3分の1免除、半額免除、3分の2免除、全学免除が判定される。

(2) 学生相談

大学生活、勉学、進路等あらゆる悩みについて気軽に相談できる「相談窓口」や、臨床心理士によるカウンセリング及び精神科医による「心の健康相談」を行っている。

(3) 障がい学生支援

修学上の支援や配慮が必要な障がい学生に対し、コーディネーターが教員や関係部門と調整し、学生個々の特性に応じた学習支援を行っている。

7-4 卒業・進路

(1) 学位授与者数の推移

a 所属別学位授与者数（学士）

（単位：人）

学部	学科	H29	H30	R1	R2	R3
文学部	日本・中国文学科	38	38	34	33	35
	欧米言語文化学科	31	42	35	36	27
	歴史学科	44	27	49	37	46
	小計	113	107	118	106	108
公共政策学部	公共政策学科	57	53	57	53	51
	福祉社会学科	55	45	53	61	51
	小計	112	98	110	114	102
生命環境学部	生命分子化学科	26	32	31	27	36
	農学生命科学科	49	44	48	53	47
	食保健学科	28	23	26	27	27
	環境・情報科学科	30	25	25	27	27
	環境デザイン学科	38	43	42	41	38
	森林科学科	40	39	35	35	36
	小計	211	206	207	210	211
合計		436	411	435	430	421

b 所属別学位授与者数（修士・博士）

（単位：人）

研究科	専攻	H29	H30	R1	R2	R3	
文学研究科	博士前期課程	国文学中国文学専攻	4	1	2	4	4
		英語英米文学専攻	0	1	2	2	4
		史学専攻	9	8	9	8	10
		小計	13	10	13	14	18
	博士後期課程	国文学中国文学専攻	1	4	2	0	1
		英語英米文学専攻	0	0	0	0	0
		史学専攻	4	2	2	1	0
		小計	5	6	4	1	1
	論文博士		1	0	1	0	1
	合計		19	16	18	15	20
公共政策学 研究科	博士前期課程	公共政策学専攻	4	2	2	1	3
		福祉社会学専攻	3	4	3	2	0
		小計	7	6	5	3	3
	博士後期課程	公共政策学専攻	0	0	2	0	0
		福祉社会学専攻	1	1	0	2	3
		小計	1	1	2	2	3
合計		8	7	7	5	6	
生命環境科学 研究科	博士前期課程	応用生命科学専攻	44	39	46	35	47
		環境科学専攻	28	29	29	16	16
		小計	72	68	75	51	63
	博士後期課程	応用生命科学専攻	3	2	3	4	3
		環境科学専攻	3	3	6	3	3
		小計	6	5	9	7	6
	論文博士		1	4	3	1	0
合計		79	77	87	59	69	
総計		106	100	112	79	95	

(2) 卒業生数（累計 令和4年5月1日現在） (単位：人)

京都府立京都農林学校		3,825	
京都府立女子専門学校		2,417	
京都府立農林専門学校		427	
京都府立(西京)大学	文 家 政 学 部	2,227	
	文 学 部	4,990	
	福 祉 社 会 学 部	844	
	公 共 政 策 学 部	1,057	
	生 活 科 学 部	1,261	
	人 間 環 境 学 部	1,037	
	農 学 部	5,771	
	生 命 環 境 学 部	2,098	
	大 学 院	文 学 研 究 科	501
		福 祉 社 会 学 研 究 科	72
		公 共 政 策 学 研 究 科	92
		生 活 科 学 研 究 科	220
		人 間 環 境 科 学 研 究 科	249
		農 学 研 究 科	1,034
		生 命 環 境 科 学 研 究 科	956
女子短期大学部		6,616	
合 計		35,694	

(3) 就職者数・進学者数

a 就職率内訳 (令和3年度卒業・修了生 令和4年5月1日現在)

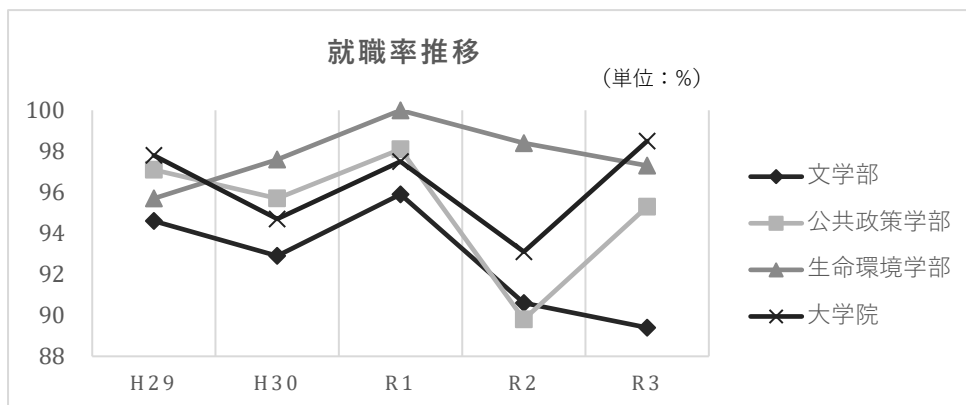
(単位:人)

学部／研究科	学科専攻	卒業修了者数	就職希望者数	就職決定者数							進学者	その他	就職率		
				業種別				地域別					① 府内	② 全体	
				民間企業	官公庁	教員	自家 自営	合計	府内	府外					
文学部	日本・中国文学科	35	28	18	5	3	0	26	13	13	4	5	50.0%	92.9%	
	欧米言語文学科	27	25	20	3	0	0	23	6	17	1	3	26.1%	92.0%	
	歴史学科	46	32	16	6	5	0	27	11	16	11	8	40.7%	84.4%	
	小計	108	85	54	14	8	0	76	30	46	16	16	39.5%	89.4%	
公共政策学部	公共政策学	51	45	21	21	0	0	42	20	22	3	6	47.6%	93.3%	
	福祉社会学	51	40	30	8	0	1	39	12	27	3	9	30.8%	97.5%	
	小計	102	85	51	29	0	1	81	32	49	6	15	39.5%	95.3%	
生命環境学部	生命分子化学科	36	9	9	0	0	0	9	1	8	26	1	11.1%	100.0%	
	農学生命科学科	47	26	24	2	0	0	26	4	22	20	1	15.4%	100.0%	
	食保健学	27	19	12	4	1	0	17	6	11	7	3	35.3%	89.5%	
	環境・情報科学科	27	13	8	5	0	0	13	2	11	13	1	15.4%	100.0%	
	環境デザイン学科	38	25	23	1	0	0	24	2	22	12	2	8.3%	96.0%	
	森林科学科	36	21	10	11	0	0	21	4	17	11	4	19.0%	100.0%	
	小計	211	113	86	23	1	0	110	19	91	89	12	17.3%	97.3%	
学部計		421	283	191	66	9	1	267	81	186	111	43	30.3%	94.3%	
文学	博前	国文学	4	1	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0.0%	0.0%
		英文学	4	1	1	0	0	0	1	0	1	2	1	0.0%	100.0%
		史学	10	7	1	4	2	0	7	2	5	3	0	28.6%	100.0%
		小計	18	9	2	4	2	0	8	2	6	8	2	25.0%	88.9%
	博後	国文学	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.0%	0.0%
		英文学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%
		史学	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0.0%	0.0%
		小計	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0.0%	0.0%

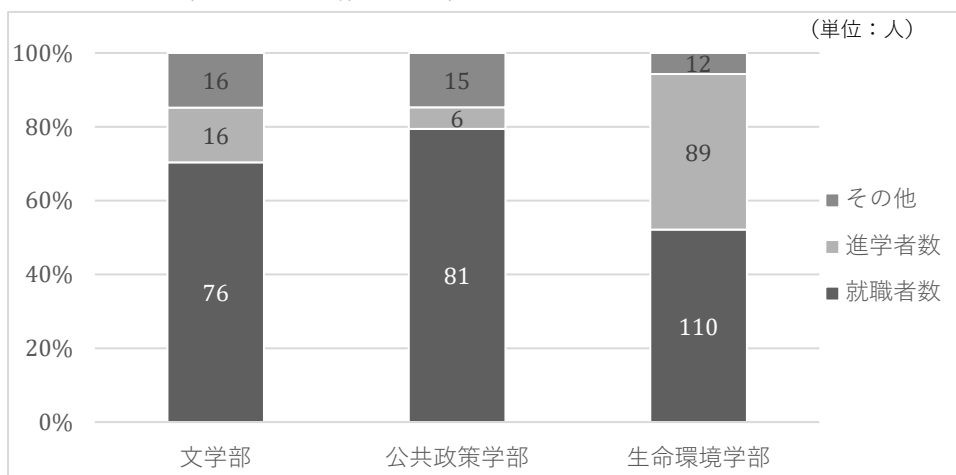
学部／研究科	学科専攻	卒業修了者数	就職希望者数	就職決定者数								進学者	その他	就職率	
				業種別					地域別		① 府内			② 全体	
				民間 企業	官公 庁	教員	自家 自営	合計	府内	府外					
公共政策学	博前	公共政策	3	2	2	0	0	0	2	0	2	0	1	0.0%	100.0%
		福祉社会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%
		小計	3	2	2	0	0	0	2	0	2	0	1	0.0%	100.0%
	博後	公共政策	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.0%	0.0%
		福祉社会	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.0%	0.0%
		小計	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0.0%	0.0%
生命環境科学	博前	応用生命環境学	47	40	37	3	0	0	40	7	33	4	3	17.5%	100.0%
		環境学	16	14	11	3	0	0	14	3	11	0	2	21.4%	100.0%
		小計	63	54	48	6	0	0	54	10	44	4	5	18.5%	100.0%
	博後	応用生命環境学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%
		環境学	2	1	1	0	0	0	1	1	0	0	1	100.0%	100.0%
		小計	2	1	1	0	0	0	1	1	0	0	1	100.0%	100.0%
大学院計		93	66	53	10	2	0	65	13	52	12	16	20.0%	98.5%	
総計		514	349	244	76	11	1	332	94	238	123	59	28.3%	95.1%	

b 就職率推移（平成 29-令和 3 年度）（単位：％）

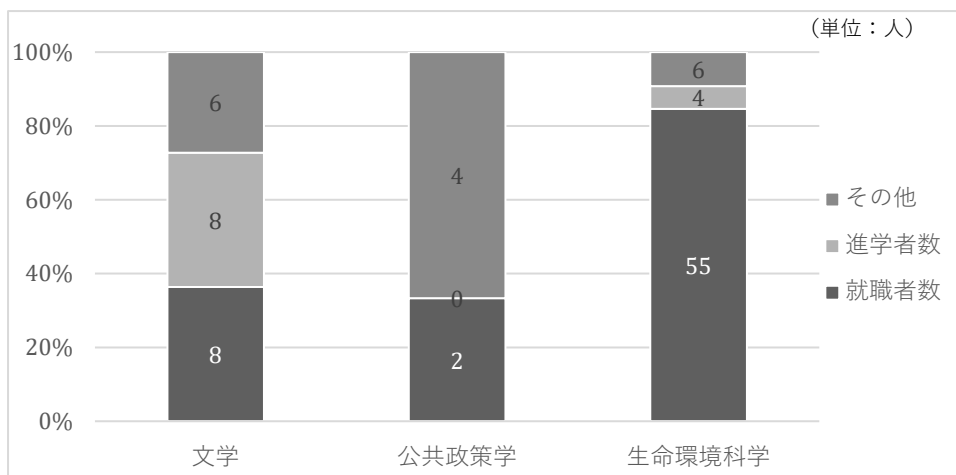
	H29	H30	R1	R2	R3
文学部	94.6	92.9	95.9	90.6	89.4
公共政策学部	97.1	95.7	98.1	89.8	95.3
生命環境学部	95.7	97.6	100.0	98.4	97.3
小計	95.8	95.7	98.2	93.6	94.3
大学院	97.8	94.7	97.5	93.1	98.5
合計	96.3	95.5	98.1	93.5	95.1



c 学士課程卒業生の進路・就職状況



d 博士前期・後期課程修了生の進路・就職状況



(4) 主な進路状況 (令和元-3 年度累計)

* グラフは、令和3年度卒業生のみデータ

a 日本・中国文学科

● 主な進学先

京都府立大学大学院、京都大学大学院

進学	民間等	公務員	教員	その他
11.4%	51.4%	14.3%	8.6%	14.3%

● 主な就職先

【民間企業】 NEC ソリューションイノベータ、SG ホールディングス、京都中央信用金庫、グラフィック、佐川急便、ジェイアール西日本伊勢丹、滋賀銀行、トヨタファイナンス、日本自動車連盟、福山通運、三井住友銀行、三井住友信託銀行、ヤマト運輸、日本通運、コカ・コーラボトラーズジャパンビジネスサービス、住友重機械工業、淡交社、ホテルニューアワジグループ、ゑり善

【公務員】 防衛省、いわき市、京都府、京都市、舞鶴市、京田辺市、京都府教育委員会(学校事務)

【教員】 岐阜県教育委員会、京都府教育委員会、京都廣学館高等学校

b 欧米言語文化学科

● 主な進学先

京都府立大学大学院、京都大学大学院

進学	民間等	公務員	教員	その他
3.7%	74.1%	11.1%	7.4%	3.7%

● 主な就職先

【民間企業】JTB、アサヒ飲料、旭ダイヤモンド工業、沖電気工業、京都銀行、鴻池運輸、住友化学、中野製薬、日本ヒューレット・パッカード、ベネッセコーポレーション、馬淵教室グループ、郵船ロジスティクス、北陽電機、三井不動産ホテルマネジメント、住友生命保険、三井住友海上火災保険、ECC、下鴨茶寮、日本電子、イオンフィナンシャルサービス（イオン銀行）、イノブン、京都銀行、阪急電鉄、伊藤軒、東邦工業

【公務員】近畿厚生局、神奈川県、滋賀県、京都府、高槻市

【教員】滋賀県教育委員会

c 歴史学科

● 主な進学先

京都府立大学大学院、京都大学大学院、神戸大学大学院

進学	民間等	公務員	教員	その他
23.9%	34.8%	13.0%	10.9%	17.4%

● 主な就職先

【民間企業】アイリスオーヤマ、イズミヤ、高齢・障害・求職者雇用支援機構、ジャヴァコーポレーション、ダイキン MR エンジニアリング、チュチュアンナ、日本年金機構、ベネッセスタイルケア、村田機械、住友不動産販売、富士精版印刷、トーセ、類設計室、さが美グループホールディングス、共同エンジニアリング、大日本除虫菊、東和ハイシステム、福井新聞社

【公務員】岐阜労働局、滋賀県、大津市、京都府、京都市、宇治市、京都労働局、東大阪市、奈良市

【教員】京都府教育委員会、大阪府教育委員会、堺市教育委員会、京都橘中・高等学校、高槻中・高等学校

d 公共政策学科

● 主な進学先

京都府立大学大学院、大阪市立大学大学院、大阪大学大学院

進学	民間等	公務員	教員	その他
5.9%	41.2%	41.2%	9.8%	2.0%

● 主な就職先

【民間企業】SG ホールディングス、SMBC 日興証券、一保堂茶舗、伊藤園、大阪信用保証協会、オリエンタルランド、京セラ、京都銀行、京都中央信用金庫、滋賀銀行、全国健康保険協会、大同生命保険、タキイ種苗、日本生命保険、日本無線、日本郵便、野村証券、美十、ヨドバシカメラ、日本電気、三井住友カード、ジェイアール西日本コンサルタンツ、カプコン、伊藤軒、エスビー食品、セブン銀行、西松屋チェーン、杉村倉庫、中国バス、JA バンク大阪信連、SMBC コンシューマーファイナンス、百五銀行、社会保険診療報酬支払基金、住友電工情報システム、積水ハウス、積水樹脂、米子市商工会議所

【公務員】文部科学省、大阪国税局、大阪税関、近畿経済産業局、大阪府(学校事務)、門真市、京都府、京都市、福知山市、長岡京市、木津川市、京都府警察

【教員】(学)関西医科大学、滋賀県教育委員会、京都府教育委員会

e 福祉社会学科

● 主な進学先

京都府立大学大学院、京都大学大学院、
大阪市立大学大学院

進学	民間等	公務員	その他
5.9%	58.8%	15.7%	19.6%

● 主な就職先

【民間企業】JR 西日本あいウィル、エンカレッジ、京都教育大学、京都市社会福祉協議会、京都信用金庫、京都中央信用金庫、京都府社会福祉事業団、神戸市民病院機構、高齢・障害・求職者雇用支援機構、社会保険診療報酬支払基金、大和ハウス工業、ニチイ学館、日本生命保険、日本福祉サービス、日本メナード化粧品、北摂杉の子会、三菱 UFJ ニコス、南山城学園、明治安田生命、洛和会ヘルスケアシステム、ワタキューセイモア、ローム、日本電気、日本赤十字社、平安養育院、京都ライトハウス、大阪市社会福祉協議会、シミセイ情報システム、楽天、スギ薬局、ヤクルト本社、村田製作所、京都商工会議所、滋賀銀行、真宗大谷派東本願寺

【公務員】法務省、会計検査院、近畿地方整備局、滋賀県(福祉)、京都府、京都市(福祉)、長岡京市、大阪府(福祉)、和歌山県(福祉)

【教員】奈良県教育委員会

f 生命分子化学科

● 主な進学先

京都府立大学大学院、京都大学大学院、
名古屋大学大学院

進学	民間等	その他
72.2%	25.0%	2.8%

● 主な就職先

【民間企業】SG ホールディングス、イシダ、カネカテクノロジー、京セラドキュメントソリューションズ、大日本住友製薬、ダイワボウプロGRESS、パナソニックインフォメーションシステムズ、東ハト、りそな銀行、日本食品分析センター、タマノイ酢、ワオ・コーポレーション、武蔵野グループ、クリーブウェア、エイエイエス、日研トータルソーシング

【公務員】大阪税関、舞鶴市、橿原市

g 農学生命科学科

● 主な進学先

京都府立大学大学院、京都大学大学院

進学	民間等	公務員	その他
42.6%	51.1%	4.3%	2.1%

● 主な就職先

【民間企業】NEC ソリューションイノベータ、アークレイ、石原産業、キューピー、京都大学、タキイ種苗、東和薬品、日本コルマー、野村総合研究所、ローム、志津屋、りそな銀行、京都銀行、カイノス、アース環境サービス、カゴメ、カネコ種苗、タカラバイオ、一富士フードサービス、丸美屋食品工業、四国化工機、住友化学、双日、堀場製作所、日本果汁

【公務員】国土交通省、裁判所、三重県(農学)、滋賀県(農業)、京都府(農業)、大阪府、奈良県(農学)、岡山県(農業)、徳島県(農業技術)、福岡県(農業)

【教員】京都府教育委員会、富山県教育委員会

h 食保健学科

● 主な進学先

京都府立大学大学院、京都大学大学院、
京都府立医科大学大学院

● 主な就職先

【民間企業】 エームサービス、京都大原記念病院グループ、くらこんホールディングス、神戸屋、スターバックスコーヒージャパン、大東カカオ、鶴屋吉信、日本ハム、ハチ食品、美十、日立グローバルライフソリューションズ、丸大食品、山崎製パン、タニタ、伊藤ハム(株)、(株)サンドラッグ、万代、創味ホールディングス、全国労働者共済生活協同組合連合会、蘇生会

【公務員】 東京都(衛生監視・栄養士)、大口町、京都府(学校事務)、島根県(管理栄養士)、由布市(管理栄養士)、

【教員】 京都府教育委員会、京都市教育委員会、兵庫県教育委員会



i 環境・情報科学科

● 主な進学先

京都府立大学大学院、大阪大学大学院、京都
大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学

● 主な就職先

【民間企業】 Sky、TIS、アークレイファクトリー、伊藤久右衛門、京セラ、京セラドキュメントソリューションズ、シャープ、日本総合研究所、三井住友カード、村田製作所、富士通ビー・エス・シー、住友重機械工業、オムロンソフトウェア、ローム、メディア・エンタープライズ、ドコモ CS 関西、ニッセイ情報テクノロジー、オービックビジネスコンサルタント、渡邊商事

【公務員】 福井県、精華町、高槻市、奈良市、京都府警察



j 環境デザイン学科

● 主な進学先

京都府立大学大学院、京都工芸繊維大学
大学院、京都大学大学院

● 主な就職先

【民間企業】 LIXIL、アキュラホーム、一条工務店、遠藤照明、京セラコミュニケーションシステム、住友林業ホームテック、積水化学工業、積水ハウス、ダイダン、大和ハウス工業、高松建設、東映京都スタジオ、ニトリ、阪急阪神百貨店、前田建設工業、パナソニックホームズ、日本マクドナルド、三菱重工交通・建設エンジニアリング、西日本旅客鉄道、長谷工設計、東急コミュニティ、AGC グラスプロダクツ、タマホーム、三井デザインテック

【公務員】 横浜市(建築)、京都府(建築)、京都市(建築)、滋賀県(建築)



k 森林科学科

● 主な進学先

京都府立大学大学院、京都大学大学院

神戸大学大学院

● 主な就職先

【民間企業】TOWA、大阪シーリング印刷、国際航業、国土防災技術、松栄堂、世界思想社教学社、中部電力、ツムラ、中日本航空、美十、山田養蜂場、ヤマトホールディングス、王子ホールディングス、YKKAP、パスコ

【公務員】林野庁(国家一般・国家総合)、近畿農政局、滋賀県(林業)、岐阜県(森林科学)、三重県(土木)、京都府(林業・林学)、京都市(農林整備)、大阪府(土木)、兵庫県(林学)、奈良県(林学)、和歌山県(林学職)、

進学	民間等	公務員	その他
30.6%	27.8%	30.6%	11.1%

l 大学院

● 主な就職先

【民間企業】LIXIL、アサヒ飲料、アサヒグループ食品、イシダ、石原産業、オリエンタル酵母工業、京都第一法律事務所、倉敷紡績、ジェイアール西日本コンサルタンツ、思文閣、シャープ、住友化学、住友精化、住友林業、住友林業アーキテクノ、創味食品、タキイ種苗、淡交社、日産化学、日本コルマー、日本バイリーン、阪急阪神不動産、前田建設工業、明星食品、山崎製パン、ローム、大東建託、NTT データ信越、沢井製薬、小野薬品工業、富士通セミコンダクター、湖池屋、チェリオコーポレーション、コーナン商事、タカラバイオ、アサノ大成基礎エンジニアリング、第一化成、ワイエムシィ、日油、味の素冷凍食品、NECソリューションイノベータ、六甲バター、タマノイ酢、三菱マテリアル、イカリ消毒、サントリーフラワーズ、UCC 上島珈琲、アークレイファクトリー、科学技術振興機構、住化農業資材、保土谷化学工業、日立ハイテクサイエンス、二九精密機械工業、フェイスラボ、ニッタ、ニッタ・デュポン

【公務員】法務省矯正局(国家総合)、農林水産省(国家一般)、林野庁(国家一般・国家総合)、京都府(建築・土木・林業・農業など)、京都市(建築)、京田辺市、奈良県、神戸市(学芸)、天理市(文化財技師)、

【教員】京都府教育委員会、立命館守山中学・高等学校、光泉カトリック高等学校

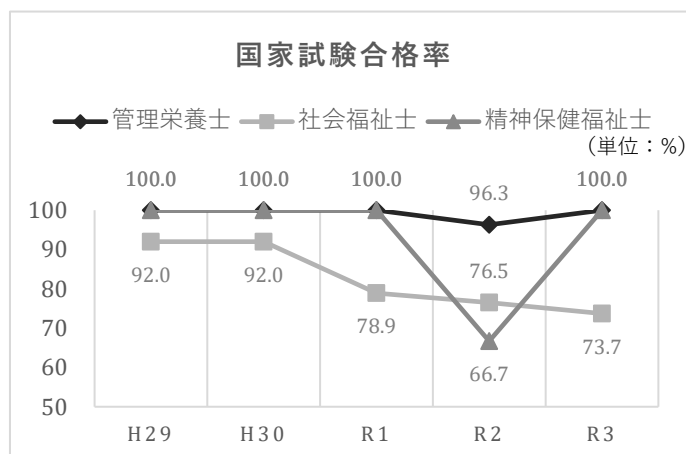
(5) 国家試験合格者

a 資格別国家試験合格者数（令和3年度）

(単位：人)

区分	管理栄養士	社会福祉士	精神保健福祉士
新卒受験者数	26	19	3
新卒合格者数	26	14	3
新卒合格率	100.0%	73.7%	100%
全国新卒合格率	92.9%	52.4%	73.3%

b 国家試験合格率推移



(6) 教員免許取得状況（令和3年度）

a 免許状種類別取得者数（学部）

学部	教科	中一種	高一種	栄一種	合計
文学部	国語	4	5		9
	英語	0	1		1
	社会	9			9
	地理		9		9
	歴史				
	公民		9		9
公共政策学部	社会	2			2
	公民		2		2
	福祉		0		0
	国語	1	1		2
	地理歴史		2		2
生命環境学部	家庭	1	1		2
	理科	5	7		12
	情報		0		0
	栄養			3	3
	農業		0		0
合計		22	37	3	62

b 免許状種類別取得者数（大学院）

教科	中一種	高一種	中専修	高専修	栄専修	合計
国語			0	0		0
英語			0	0		0
社会			4			4
地理歴史				4		4
公民				0		0
福祉				0		0
理科			1	1		2
栄養					0	0
農業				0		0
合計			5	5	0	10

*大学において一括申請を行った件数のみ記載
斜線部分は当該学部で資格が取得できないもの

8 研究

8-1 科学研究費補助金

(1) 科学研究費補助金獲得額の推移（平成24-令和3年度）

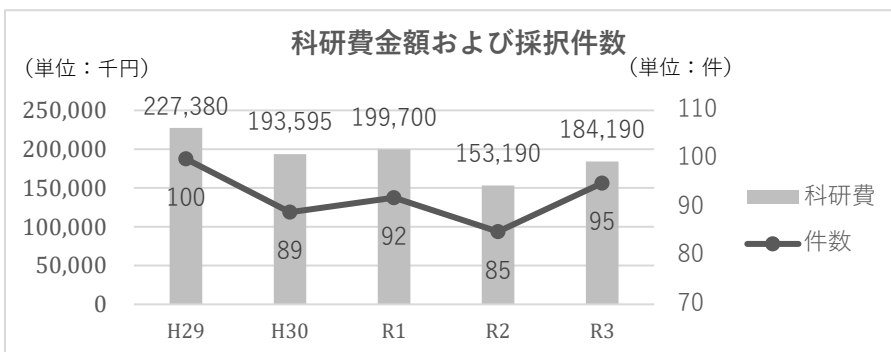
（単位：千円）

科学研究費	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
大学全体 （直接費+間接費）	179,530	202,670	176,020	217,100	232,050	215,670	192,140	193,960	169,000	166,400
公立大学順位	13位	13位	15位	13位	13位	13位	13位	13位	17位	16位
教員1人当たり （直接費+間接費）	1,221	1,351	1,143	1,457	1,600	1,508	1,382	1,356	1,134	1,140
公立大学順位	8位	9位	11位	6位	4位	6位	7位	8位	14位	11位
公立大学校数	81校	82校	85校	86校	88校	88校	89校	92校	93校	94校

*①科学研究費補助金獲得額：各年度の研究機関別科学研究費配分状況（文科省公表）の金額（研究代表者の研究機関毎の補助金採択額）

②教員1人当たり研究費獲得額：α年度配分額÷α年度前年度の専任教員数（公立大学協会統計データ）

(2) 科学研究費金額および採択件数



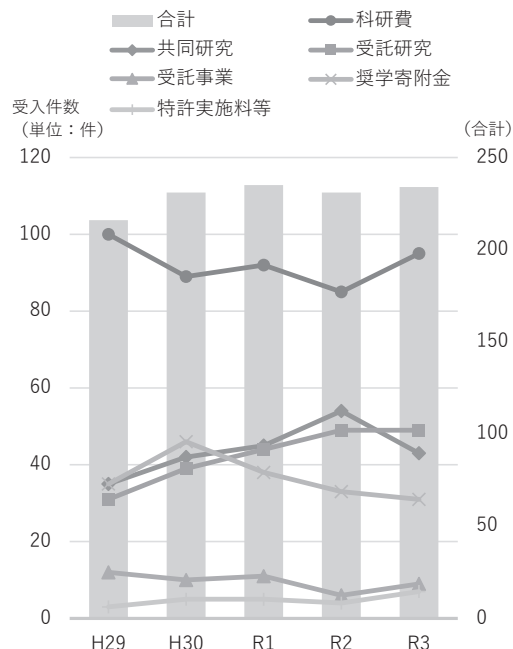
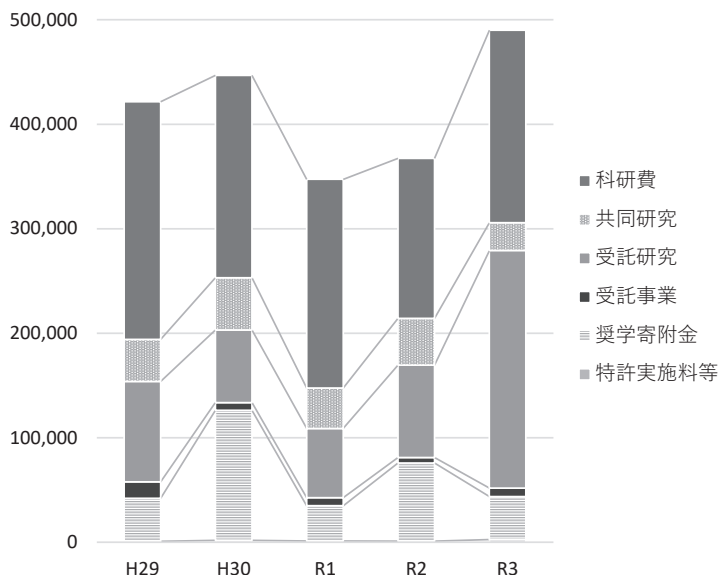
*間接経費を含む

8-2 産学官連携

(1) 外部資金受入実績（平成 29-令和 3 年度）

（年度別の受入額であり、決算額とは相違する）

受入金額（単位：千円）



	H29		H30		R1		R2		R3 (暫定)	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
科研費（再掲）	100	227,380	89	193,595	92	199,700	85	153,190	95	184,190
共同研究	35	40,107	42	50,004	45	38,539	54	44,547	43	26,686
受託研究	31	96,099	39	69,338	44	66,322	49	88,539	49	227,318
受託事業 <small>(外部からの委託を受けて行う研究以外の事業)</small>	12	15,725	10	7,570	11	7,762	6	5,249	9	8,134
奨学寄附金	35	41,302	46	124,468	38	33,558	33	74,755	31	41,035
特許実施料等	3	865	5	1,694	5	1,297	4	917	7	2,525
合計	216	421,478	231	446,669	235	347,178	231	367,197	234	489,888

(2) 主な補助金決算額の推移

(単位：千円)

補助事業名	交付主体	R1	R2	R3	摘要
地(知)の拠点大学による 地方創生推進事業 (COG+)	文部科学省	3,414	—	—	平成 27～令和元年度 (代表校:京都工芸繊維大)
森林・山村多面的機能発揮対策 交付金	(公社) モデルフ ォレスト協会 (林野庁)	952	1,140	418	事業期間：令和元～3 年度 (平成 25～30 年度の採択実 績あり)
「京(みやこ)グローバル大学」促 進事業	京都市	1,694	—	—	事業期間：平成 28～令和元 年度
京都チャレンジ・バイ認定商品補助金	京都府	352	—	—	
中小企業経営支援等対策費補助金 (戦略的基盤技術高度化支援事業)	(公財) 岡山県 産業振興財団 (経済産業省)	8,384	4,667	4,900	事業期間：令和元～3 年度
新型コロナウイルス感染症対策大学 等授業再開支援補助金	京都府	—	1,000	—	
大学における学生支援強化特別対策 事業補助金	京都市	—	6,339	—	
大学等学生生活安心支援事業費補助 金	京都府	—	10,000	—	
安心・安全な MICE 開催支援 (MICE 施設向け) 補助金	(公財) 京都文 化交流コンベン ションビューロー	—	1,000	—	
新型コロナウイルス感染症対策助成 事業	(独) 日本学 生支援機構	—	800	—	
大学改革推進等補助金 (新型コロナ ウイルス感染症対応公立大学等授業 料等減免臨時支援事業)	文部科学省	—	226	—	
施設実習生安心確保事業費補助金	京都府	—	105	—	
林業成長産業化総合対策補助金等 (戦略的技術開発・実証事業)	林野庁	—	—	23,501	
大学改革推進等補助金 (デジタル活用教育高度化事業)	文部科学省	—	—	31,073	
文化芸術振興費補助金 (「食文化スト ーリー」創出・発信モデル事業)	文化庁	—	—	8,524	
厚生労働行政推進調査事業費補助金	厚生労働省	—	—	200	事業期間：令和 3～5 年度
大学等教育環境緊急支援事業費補助 金	京都府	—	—	3,000	
年末年始緊急生活支援事業費補助金	京都府	—	—	750	
合 計		14,796	25,277	72,366	

*令和 3 年度決算額については、京都府知事承認前のもの

(3) 知的財産管理 (令和 4 年 5 月 1 日現在)

<特許一覧> (取得済みのみ。申請中の案件は掲載しない。)

本学発明者	特許(登録日)	発明等の名称 【単】 = 単独、【共】 = 企業等との共同
宮崎 孔志	特許第 5716173 号(H27.3.27)	病原性因子産生抑制剤 【単】
牛田 一成	特許第 5690270 号(H27.2.6)	乳酸菌由来の RNA を有効成分とする組成物 【共】
井上 亮	米国特許 (H26.7.1)	
沼田 宗典	特許第 5646505 号(H26.11.14) 米国特許(H26.12.9) 台湾特許(H27.3.21) 欧州特許(R2.4.29)	疎水性クラスター化合物への水溶性又は水分散性の付与方法 【共】
宮崎 孔志	特許第 6004401 号(H28.9.16) 韓国特許(R1.5.21)	病原因子産生抑制繊維及びその製造方法 【共】

本学発明者	特許(登録日)	発明等の名称 【単】=単独、【共】=企業等との共同
宮崎孔志	特許第 5904618 号(H28.3.25)	アトピー性皮膚炎抑制用繊維の使用方法及びアトピー性皮膚炎抑制用繊維 【共】
牛田一成 井上亮	特許第 6138570 号(H29.5.12)	免疫調節作用を有する RNA 【共】
和田小依里 ほか	特許第 6172700 号(H29.7.4)	トルラ酵母由来グルコシルセラミドの線維芽細胞増殖促進剤としての利用 【共】
和田小依里 ほか	特許第 6261031 号(H29.12.22)	トルラ酵母由来グルコシルセラミドの大腸癌抑制剤としての利用 【共】
和田小依里 ほか	特許第 6281890 号(H30.2.2)	トルラ酵母由来グルコシルセラミドの美白剤としての利用 【共】
青井涉	特許第 6288757 号(H30.2.16)	運動機能性向上剤 【共】
細矢憲	特許第 6395183(H30.9.7)	陰イオン交換能を発現する両性イオン導入樹脂 【共】
細矢憲	特許第 6395184(H30.9.7)	陽イオン交換能を発現する両性イオン導入樹脂 【共】
桑波田雅士	特許第 6889435 号(R3.5.25)	タンパク質代謝要求量を低減させたタンパク質組成物の設計方法、及び当該設計方法に基づくタンパク質含有飲食品組成物の製造方法 【共】

(4) 包括協定締結状況（令和 4 年 5 月 1 日現在）

a 京都府内自治体

協定先	協定締結日	主な連携協力事項
宮津市	H18.12.25	①観光を基軸としたまちづくり ②文化・教育の振興 ③環境保全 ④産業振興
宇治田原町	H20.2.26	①地域資源を活用したまちづくり推進 ②健康・福祉向上 ③文化・教育振興 ④環境にやさしいまちづくりの推進 ⑤協働のまちづくり ⑥人材育成
長岡京市	H22.3.12	①健康・福祉増進 ②環境保全 ③文化・教育振興 ④まちづくり推進 ⑤産業振興 ⑥健全な行財政の運営 ⑦市民参画協働の推進 ⑧人材の育成
精華町	H25.1.31	①精華キャンパスに係る教育研究を通じた地域の振興 ②健康・福祉増進 ③環境保全 ④文化・教育振興 ⑤産業振興・まちづくりの推進 ⑥人材育成
舞鶴市	H25.5.17	①市民参画・協働推進 ②政策推進 ③まちづくり推進 ④人材育成 ⑤文化・教育振興
南丹市	H26.1.31	①保健・福祉充実 ②食育 ③まちづくり推進 ④人材育成 ⑤産業振興
久御山町	H27.3.9	①産業振興・まちづくり推進 ②住民参画・協働推進 ③健康・福祉増進 ④文化・教育振興 ⑤人材育成 ⑥健全な行政の推進
京丹後市	H28.3.16	①教育研究を通じた地域の振興 ②人材育成 ③文化・教育振興 ④健康・福祉増進 ⑤環境保全 ⑥産業振興・まちづくり推進
和束町	H29.12.6	①人材育成 ②地域資源を活用したまちづくり推進 ③産学公連携による地域振興 ④農林業振興 ⑤健康増進・食育 ⑥歴史文化に係る地域文化の発展
相楽東部広域連合	H29.12.6 (覚書)	歴史文化の分野で相互に協力し地域文化の発展に寄与すること
宇治市	H30.6.22	①教育研究を通じた地域振興 ②まちづくり・産業振興の推進 ③文化・歴史・教育振興 ④健康・福祉増進 ⑤環境保全 ⑥人材育成
京田辺市	R4.3.18 (H29.7.24 覚書)	①教育研究を通じた地域振興 ②健康・福祉増進 ③環境保全 ④文化・歴史・教育振興 ⑤産業振興・まちづくり推進 ⑥人材育成

b 京都府外自治体

協定先	協定締結日	主な連携協力事項
岡山県津山市	R3.4.16	①森林資源の利活用に係る調査・研究 ②新事業の創出を通じた産業振興及び地域振興 ③林業やものづくり等を通じた人材の育成

c 高等学校

協定先	協定締結日	主な連携協力事項
京都府立北桑田高等学校 京都府立農芸高等学校	R3.4.1	①高校生への講義・実験・実習機会の提供 ②高校での実習や生徒との交流体験機会の提供
京都府立西舞鶴高等学校 京都府立東舞鶴高等学校 学校法人聖ヨゼフ学園日星高等学校	R4.1.18	①教職員相互の研修・交流促進 ②高校生対象の学習機会の提供 ③高校の教育現場の体験機会の提供 ④課外活動における交流機会の相互提供 ⑤高校生への大学情報発信

d 公的機関・団体等

協定先	協定締結日	主な連携協力事項
京都府立林業大学校	H23.11.25	双方の間の交流と協力を促進し、教育内容の充実発展を図ること
林野庁 近畿中国森林管理局	H25.11.26	生物多様性保全など森林の多面的機能の維持、森林資源有効利用、森林・林業再生及び地域振興に貢献するための調査研究・人材育成等促進
地方独立行政法人京都市産業技術研究所	H26.10.28	①共同研究 ②研究成果等の普及 ③人材育成 ④産学公の交流・連携
京都市産業観光局中央卸売市場第一市場	H28.10.6	①健康増進・食育にかかる情報発信・活動 ②市場活性化・市場流通商品の消費拡大 ③地域活性化 ④大学の教育・研究活動及び人材育成
一般社団法人京都経済同友会	H29.3.30	①地域経済の振興・地域社会発展 ②人材育成及び教育・研究の活性化 ③産学公連携の取組推進
京都信用保証協会	H30.3.5	①地域社会の発展及び地域経済の活性化 ②人材育成及び教育・研究の活性化 ③産学公連携の取組推進
京都商工会議所	R2.9.30	①地域産業の活性化 ②事業所の経営支援 ③持続可能な社会の実現につながる活動 ④大学の教育・研究活動及び人材育成
京都府中小企業団体中央会	R2.11.30	①地域産業活性化 ②中小企業組合・事業所の経営支援 ③持続可能な社会の実現への活動 ④大学の教育・研究活動及び人材の輩出・育成
文化庁地域文化創生本部	R3.3.22	①文化の振興及び社会の発展 ②大学教育・研究活性化及び人材育成
京都府漬物協同組合	R4.5.22	①漬物製造業等地域産業の振興に関すること ②和食文化の振興に関すること ③京漬物のブランド強化に関すること ④大学の教育・研究活動及び人材育成に関すること

e 民間企業等

協定先	協定締結日	主な連携協力事項
大阪ガス株式会社	H27.11.11	①和食文化教育の推進 ②和食文化研究の発展 ③和食文化の情報発信 ④和食文化の啓発
カゴメ株式会社	H27.11.11	①和食文化に係る教育プログラムの推進 ②和食文化に係る共同研究等の実施とこれに伴う研究者の交流 ③学生に対する教育機会の付与
キッコーマン株式会社	H27.11.12	①和食文化に係る教育プログラムの推進 ②和食文化に係る研究者の交流 ③学生に対する教育機会の付与
特定非営利活動法人日本料理アカデミー	H27.11.11	①和食文化に係る教育プログラムの推進 ②和食文化に係る共同研究等の実施とこれに伴う研究者の交流 ③学生に対する教育機会の付与
株式会社京都銀行	H28.7.7	①地域の知の拠点としての地域創生推進 ②地域経済の活力の創造 ③地域の人材育成に向けた取組み
三洋化成工業株式会社	R2.3.26	①新技術の研究開発・新事業の創設等を通じた産業振興及び地域振興 ②ものづくりを通じた人材等育成
ソフトバンク株式会社	R4.4.1	①5G等先端技術を活用した Society 5.0 実現のためのイノベーションの創出支援 ②Society 5.0 の実現・研究に必要な学内環境整備 ③新たなジョイントベンチャー制度を活用した研究成果の事業化 ④各種デジタルインフラを活用した府内地域の課題解決・新たなビジネスモデル創出

9 本学の特徴・特徴的な取組

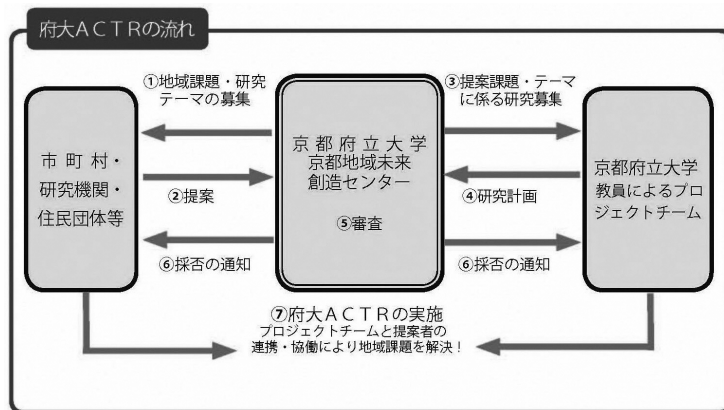
9-1 地域連携

(1) 地域貢献型特別研究（ACTR: Academic Contribution To Region）

地域の課題に取り組む活動を支援するため、本学教員を中心とする研究プロジェクトチームが調査・研究を実施している。

<対象分野>

- ・ 府域の課題に的確に対応し地域振興、産業・文化の発展等に貢献する調査・研究
- ・ 文理融合や学際的研究等、時代の要請にあったテーマについて、地域に広く還元し、発信する調査・研究



(2) 京都地域未来創造センター（KIRP: Kyoto Institute for Regional Prospects）

大学の「知」を生かし、地域の未来を創るための拠点として、地域、自治体などから本学への問い合わせを受け、基礎的な調査研究を行うとともに、センターのウェブサイト等を活用して府大 ACTR を中心とした調査研究の成果の発信を行う。府内自治体から職員を受け入れている。

<https://kirp.kpu.ac.jp/>

(3) 産学公連携リエゾンオフィス

令和3年4月、企業・大学・公共団体の研究活動の連携活動を一層強化するため、京都地域未来創造センターから独立。本学における産学公連携研究のコーディネート及び契約事務並びに知的財産の管理等を一元的に行っている。

(4) 新自然史科学創生センター（CFNH: Center for Frontier Natural History）

令和3年4月、従来の研究体系の枠組みを超えた学際的な地球上の多様性と環境に関する学術研究と情報発信を行うための学内横断的な拠点として設立。新たな自然史の研究体系である新自然史科学の創生を目指す。令和4年度に京都府立植物園と本学との間での人事交流をスタート。

<https://www.cfnh-kpu.com/>

(5) 北山文化環境ゾーン交流連携会議（北山ぱーとなーず）

北山地域の大学・施設・商店街・行政等が日常的な交流を通してエリア全体の魅力向上、様々な主体が交流する地域づくりを行う（会長：本学学長、事務局：京都府文化スポーツ施設課）。

(6) 学生の地域貢献

a 課題解決型学習（PBL: Project Based Learning）を通じた地域貢献活動

授業の中で学生による現地実習・調査を通じて地域課題の解決策を検討し、政策提言等により地域に還元する取組を実施している。

b 広報委員会学生部会 KPU KPU ラジオ（かぶらじ）

地域貢献活動や学生生活、北山ぱーとなーず等と連携した地域情報等を、学生目線で発信する。令和4年7月から YouTube チャンネルを開設。ラジオを中心に学生自身の声と言葉で配信。

(7) 生涯学習・リカレント・公開講座等

講座等名称	R4 内容	R3 実績
桜楓講座	各学部の特徴を生かした内容で、春・秋年2回開講。新型コロナウイルス感染拡大防止のため2年度以降 YouTube 上で開講。 春の部：6/24～7/3 果物の品種改良 7/4～7/13 植物の虫こぶ 秋の部：開講日未定	春の部：2 講座 秋の部：2 講座
地域文化セミナー	産業経済・歴史文学や医療・保健、福祉など幅広いテーマで、府内市町村等と共同してセミナーを開催。224 の講演テーマを準備	大山崎町、長岡京市、向日市
演習林野外セミナー	附属演習林で、森林と環境の関係や山村の暮らしの体験、樹木等の観察を通して自然史を学ぶセミナーを開講。新型コロナウイルス感染拡大防止のため高校生限定で人数を制限して開催（開催時期等未定）。	大学の森・森林科学 野外実習コース： 10/2
農場ユウカルチャーデー	開かれた農場を目指して、関西文化学術研究都市（精華町）にある生命環境学部附属農場を広く府民に開放し、大学や農業に親しみを持ちながら豊かな心を育んでもらう。 小学生：コース 8/3 成人コース：12 月上旬実施予定	小学生コース：7/28 成人コース：11/19
新自然史サイエンスツアー	京都府立植物園と共主催で、若手教員が専門を生かして植物園内を案内する小学校高学年向けサイエンスツアー。 春：4/23・5/28・6/5 秋：開催日未定	9/11・10/9・11/21
大学コンソーシアム京都「京（みやこ）カレッジ」 [㊦]	公共政策学部教員が「選挙参加意識の市民力」を開講。 6/1～7/20（毎週水曜日） https://www.consortium.or.jp/project/sg/details	-
京都府生涯現役クリエイティブセンター「リカレント研修」 [㊦]	「地域・社会貢献人材育成コース」に公共政策学部教員が地域活性化人材の育成プログラムを提供。7/1～8/24 https://recurrent-kyoto.com/	-
その他	本学のグラウンド、体育館、テニスコート及び附属図書館を大学の教育・研究活動の支障にならない範囲で府民の利用に供する。	

(8) 自治体等審議会委員就任状況

参画先	H28	H29	H30	R1	R2	R3
京 都 府	29	36	30	35	9	18
府 内 市 町 村	46	61	49	64	29	34
府 外 都 道 府 県	23	25	25	23	18	13
府 外 市 町 村	27	30	35	38	33	19
国 等	17	20	19	17	13	12
その他公的機関	85	84	63	57	41	19
合 計	227	256	221	234	143	115

(9) 府民向け広報誌発行状況

誌名	発行時期	内容
京都府立大学概要	年 1 回	大学沿革、組織、教員構成表、学部・学科紹介、進路状況、予算状況等を掲載。
大学案内 (キャンパスガイド)	年 1 回 (6 月頃)	受験生、企業向けに大学の概要を紹介するもの。 各学部学科紹介、課外活動、就職・進学情報、入試情報、 教養教育、国際交流の取組み等を掲載。
ふたはの桂	年 1 回 (10 月)	広報誌。各学部・研究科の取組み、地域連携・地域貢献情報ほか、 大学全体のトピックス等を掲載。
京都地域未来創造センター ニューズレター	隔月	セミナー等のイベントの告知・開催報告、ACTR、協働・受託研究の 概要報告等を掲載。
なからぎ	年 4 回 (4・7・10・1 月)	図書館報。学長・館長・副学長等の巻頭文、図書館運営委員の 随筆、利用案内、図書館からのお知らせ等を掲載。
学科紹介パンフレット	適宜	各学科で作成する学科の特徴等を紹介するパンフレット。

9-2 大学連携

(1) 京都三大学教養教育共同化

① 共同化の目的

全国初の試みである設置形態（国立・公立）や専門領域の異なる三大学（本学、京都府立医科大学、京都工業繊維大学）の教養教育共同化を平成 26 年度から実施。新たに構築した「新しい時代の要請に応じた教養教育カリキュラム」により三大学の学生が共に学ぶことで、深い教養に裏打ちされた人材を継続的に輩出することを目的としている。

② 共同化の趣旨

変化の激しい今日にあって、時代が求める新たな教養教育を構築していくため、次の 3 点をねらいとして取り組む。

- ・ 三大学は個々には規模が小さく、各大学で提供できる科目には限りがあるため、各大学の強みと特徴を生かした科目を提供し合い、学生の科目選択の幅を広げ、学修意欲を一層高めること
- ・ 文系、理工系、医学系の専門分野や将来の志望の異なる三大学の学生が授業で混在し、多様な視点や価値観を交流して、一緒に学ぶ学修空間を創り出すこと
- ・ 学生間の交流や討論、共同学修が進むよう学生参画型の授業を広げていくこと

③ 特徴ある教養科目の展開

- ・ 少人数での討論等を中心とした「リベラルアーツ・ゼミナール」
- ・ 「京都学」

- ・ 上回生対象の高度教養教育科目
- ・ 語学・異文化理解科目
- ・ フィールドワークを取り入れた科目
- ・ 三大学の特色を活かした科目

④ 共同化の沿革

平成 18 年 10 月	三大学の連携に関する包括協定を締結
平成 19 年 4 月	三大学で教養教育の単位互換をスタート
平成 21 年	夏期休暇中に三大学で合同授業実施
平成 23 年 1 月	三大学で教養教育の共同化・施設利用推進の覚書締結
平成 23 年度	三大学教養教育部会で共同化のあり方を検討
平成 24 年度	文部科学省補助金「大学間連携共同教育推進事業」に採択
平成 24 年 10 月	「京都三大学教養教育研究・推進機構」を設置
平成 26 年 4 月	共同化授業（月曜日午後）スタート
平成 26 年 9 月	教養教育共同化施設「稲盛記念会館」竣工 後期授業から共同化施設で授業開始⇒三大学学生交流が一気に進展
平成 29 年 4 月	共同化授業を月曜日午前に拡大
平成 30 年 3 月	文部科学省補助金の事後評価で最高ランクの「S」評価を受ける

⑤ 共同化科目数の変化

年 度		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
科 目 数		68	74	74	80	82	79	81	80	76
分野内訳	人間と文化	23	22	25	29	29	29	31	30	30
	人間と社会	26	28	27	26	26	25	25	25	23
	人間と自然	19	24	22	25	27	25	25	25	23

⑥ 学生の教養科目選択幅の拡大

大学名	科目数		倍数 (B/A)
	①共同化前 (25年度)	②令和4年度	
府立大	42	94	2.2
府立医大	医学科	34	102
	看護学科	17	86
工芸繊維大	54	115	2.1

*②欄の科目数は共同化科目と各大学独自の教養科目の計

⑦ 共同化科目履修登録者数の変化

年度	大学名	前期	後期	合計	交流率
H26	工織大	1,534	1,136	2,670	26.6%
	府大	1,439	1,362	2,801	
	医大	272	153	425	
	合計	3,245	2,651	5,896	
H27	工織大	1,894	1,163	3,057	38.4%
	府大	1,806	1,240	3,046	
	医大	422	112	534	
	合計	4,122	2,515	6,637	
H28	工織大	2,177	1,298	3,475	42.6%
	府大	1,797	1,346	3,143	
	医大	520	119	639	
	合計	4,494	2,763	7,257	
H29	工織大	2,352	1,309	3,640	45.7%
	府大	1,942	1,426	3,368	
	医大	589	106	695	
	合計	4,883	2,841	7,703	
H30	工織大	2,686	1,854	4,540	52.3%
	府大	1,410	1,316	2,726	
	医大	593	155	748	
	合計	4,689	3,325	8,014	
R1	工織大	2,776	1,419	4,159	55.1%
	府大	1,630	1,489	3,119	
	医大	628	199	827	
	合計	5,034	3,107	8,141	
R2	工織大	1,386	1,752	3,138	50.9%
	府大	1,600	1,384	2,984	
	医大	554	279	823	
	合計	3,540	3,415	6,955	
R3	工織大	3,004	1,789	4,793	50.7%
	府大	1,524	1,426	2,950	
	医大	595	186	781	
	合計	5,123	3,401	8,524	

履修登録者数
H26→R3
44.6%増

*交流率：科目提供大学以外の大学の履修者数をその科目の全履修者数で割った値

⑧ 令和4年度 京都三大学教養教育共同化カリキュラム (76科目)

人間と文化 (30科目)	人間と社会 (23科目)	人間と自然 (23科目)
<p>《人間と歴史》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・哲学 ・比較宗教学 ・宗教と文化 ・日本史 ・東西文化交流史 ・アジアの歴史と文化 ・ヨーロッパの歴史と文化 ・技術の人間学 <p>《文化・芸術》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラテン語 ・西洋文化論 ・日本近現代文学 ・西洋文学論 ・美と芸術 ・日本近代精神史 ・フランス語圏の文化とジャポニスム ・映画で学ぶ英語と文化 ・映画で学ぶドイツ語と文化 ・医療人類学 ・認知心理学 <p>《京都学》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都の歴史Ⅰ ・京都の歴史Ⅱ ・京都の文学Ⅰ ・京都の文学Ⅱ ・京の意匠 ・英語で京都 ・資料で親しむ京都学 ・京都の文化と文化財 <p>《リベラルアーツ・ゼミナール》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代イスラーム世界の文化と社会 ・感性の実践哲学 ・資料で親しむ京都学 (再掲) ・現代正義論 	<p>《社会科学の基礎》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療と社会 ・社会学Ⅰ ・社会学Ⅱ ・政治学 ・国際政治 ・経済学入門 ・法学 <p>《人間と社会》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活と経済 ・心理学 ・現代社会と心 ・現代社会とジェンダー ・現代教育論 ・環境と法 ・現代医療の人間観 ・食経営学 <p>《京都学》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代京都と三大学 ・京の産業技術史 ・現代京都論 ・京都の経済 <p>《リベラルアーツ・ゼミナール》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会に学ぶ問う力・書く力 ・社会科学の学び方 ・世界はいま ・経営哲学 	<p>《自然科学の基礎》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物理学Ⅰ ・化学概論Ⅰ ・化学概論Ⅱ ・生物学概論Ⅰ ・生物学概論Ⅱ ・生命科学講話 <p>《人間と自然・科学》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人と自然と数学α ・人と自然と数学β ・人と自然と物理学 ・生物学の人間学 ・科学史 ・環境問題と持続可能な社会 ・食と健康の科学 ・キャンパスヘルス概論 ・エネルギー科学 ・現代科学と倫理 ・医学概論 <p>《京都学》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都の農林業 ・京都の防災と府民 ・京都の自然 <p>《リベラルアーツ・ゼミナール》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製品の機能から科学を学ぶ ・意外と知らない植物の世界 ・レーザーで測る、創る、楽しむ
上回生向け開講 (7科目) (再掲)		
<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語圏の文化とジャポニスム ・映画で学ぶ英語と文化 ・映画で学ぶドイツ語と文化 ・英語で京都 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料で親しむ京都学 (リベラルアーツ・ゼミナール) ・経営哲学 (リベラルアーツ・ゼミナール) ・医学概論 	

(2) 地 (知) の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+)

平成27年度から北京都 (府北部・中部地域) を中心として、府内の国公立大学・高専、地方自治体、企業等との連携により、理工系及びサービス経営人材を輩出し、若者を地元に着させることで、府全体の地域活性化を図る取組を実施。

本学では、公務員、観光産業等のサービス経営人材を育成するため、「地域創生人材育成プログラム」などの取組を実施してきた。

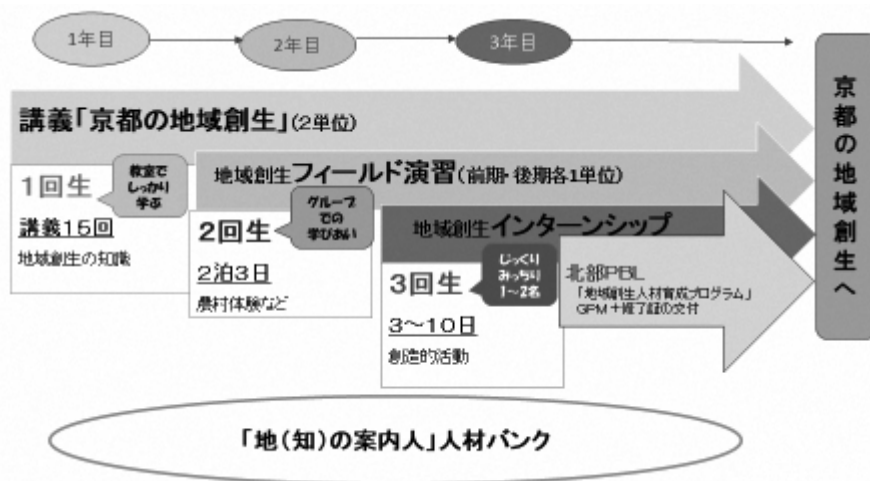
<京都市立大学の取組>

① 「地域創生人材育成プログラム」の実施（平成28年度～）

1回生で講義（15回）、2回生でフィールド演習（2泊3日程度）、3回生でインターンシップ実習（3日～10日）を行う地域創生人材育成プログラムを実施。今年度はフィールド演習のみを実施。

② 「COC+地（知）の案内人（人材バンク）」の登録（平成27年度～）

「地域創生フィールド演習」や「インターンシップ実習」の講師として京都府北部地域で活躍する、農林漁業・六次産業・工芸・建設設計・自然体験など様々な分野の優れた方々を選定し人材バンクに登録（現在55名）。



9-3 和食文化研究

「和食」が無形文化遺産に登録されたことを契機に、和食文化を担う人材の育成、研究推進及び研究成果の還元等を行うことにより、和食文化の保護、継承及び発展に寄与することを目的として、平成26年10月に京都和食文化研究センターを設置した。

日本の【食】文化が世界から注目される中、本学の人文・社会・自然科学にわたる教育・研究の蓄積と、和食文化の主たる要素である文化・学術・技術・伝承が集積する京都の強みを活かし、平成31年4月に「文化」を軸とした和食の高等教育・研究機関として文学部「和食文化学科」を開設した。

また、和食文化をさらに展開させ、「食の文化」を軸にした学際的・国際的な教育・研究をめざす「食の文化学位プログラム（仮称）」（博士前期課程・博士後期課程）の開設準備を進めている。

<主な機能と取組>

① 和食文化に関する教育・研究の推進

- ・ 和食文化に関する学際的研究の実施と外部資金獲得のための申請
- ・ 令和3年度文化芸術振興費補助金「食文化ストーリー」創出・発信モデル事業の実施

② 研究成果の府民等への還元・発信

- ・ 有料連続講座等の実施
- ・ リカレント講座の実施
- ・ ウェビナーシンポジウムの実施

③ 学外連携、国際交流

- ・ 京都府からの受託研究の実施（希少京野菜『桂うり』の機能性・保存に関する研究）

<体制>

センター長

小林 啓治 文学部 教授

副センター長

佐藤 洋一郎 文学部 特別専任教授

客員教授（五十音順）

熊倉 功夫 一般社団法人和食文化国民会議 名誉会長、MIHO MUSEUM 館長

杉本 節子 公益財団法人奈良屋記念杉本家保存会 常務理事兼事務局長

筒井 紘一 一般社団法人文化継承機構 代表理事、一般財団法人今日庵茶道資料館 顧問

仲田 雅博 学校法人大和学園 理事、大和学園ホスピタリティ産業振興センター長

原田 信男 和食文化学会 会長、国土舘大学 名誉教授

村田 吉弘 特定非営利活動法人日本料理アカデミー 理事長

9-4 国際化の推進

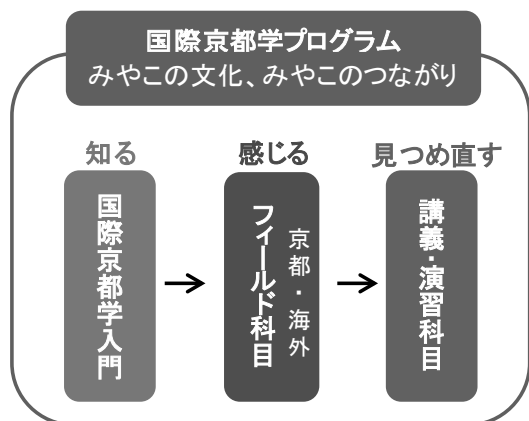
(1) 国際京都学

a 海外若手研究員受入事業

京都府立京都学・歴史館では、日本や京都を研究テーマとする海外若手研究者を「京都学研究員」として受け入れ、京都で研究する機会を提供している。研究交流を通じて国際的ネットワークを構築し、研究成果を国内外に発信する。本学は招聘研究員を共同研究員として受け入れ、研究活動のサポート支援を行う。平成30年1月には、本学から優秀な若手研究者を京都学・歴史館の研究員候補として推薦するための覚書を締結した。

b 国際京都学プログラム

「みやこの文化、みやこのつながり」をテーマに、文学・言語・歴史・文化遺産・芸能・和食など多方面から京都文化を学ぶプログラム。豊かな文化を伝える京都のフィールドで体感し、海外へ出て考え、再び京都を見つめ直すことにより、京都文化の特殊性と普遍性、世界の中の京都をアカデミックに探究する。



(2) 国際交流協定締結校（令和4年5月1日現在）

< 国際交流協定締結校 一覧 >

協定校	締結日 (直近更新日)	協定区分	交流母体	交流項目
西安外国語大学 (中華人民共和国)	S57.3.18 (R2.3.5)	大学間協定	文学部	教員・学生の交流、大学院生の日本語講師としての派遣
雲南農業大学 (中華人民共和国)	H16.8.17 (R2.12.20)	大学間協定	生命環境 科学研究科	教員・研究者・学生交流、共同研究等
ラヴァル大学 (カナダ)	H21.3.9 (H30.6.21)	大学間協定	生命環境 科学研究科	教職員・研究者・学生交流、共同研究、シンポジウムの実施等
ウィーン農科大学 (オーストリア共和国)	H21.10.2 (R2.12.4)	大学間協定	生命環境 科学研究科	共同研究、国際交流スタッフ・学生交流等
キングモンクット工科大学 トンブリ校(タイ王国) 【生物資源工学研究科】	H22.1.14 (R2.12.4)	大学間協定	文学部	教員・研究者・学生交流、共同研究等
タデウラコ大学 (インドネシア共和国)	H25.3.28 (R2.8.25)	大学間協定	生命環境 科学研究科	教職員・研究者・学生交流、共同研究、シンポジウム・講義・講演の開催、学術情報及び資料の交換等
Mahidol 大学 (タイ王国)【薬学部】	H25.7.26 (R2.7.25)	部局間協定	文学部	教職員・学生交流、共同研究・シンポジウムの開催、学術情報及び資料の共有等
レーゲンスブルク大学 (ドイツ連邦共和国) 【言語コミュニケーションセンター】	H25.12.20 (R2.12.20)	部局間協定	文学部	学生・研究者・教職員交流・学術情報及び資料交換・共同教育
タクシン大学 (タイ王国) 【技術・地域開発学部】	H26.12.15 (H30.11.2)	部局間協定	生命環境 科学研究科	教職員・研究者・学生交流、共同研究、シンポジウム・講義・講演の開催、学術情報及び資料の交換等
陝西師範大学 (中華人民共和国)	H27.5.12 (R2.8.24)	大学間協定	文学部	教職員・研究者・学生交流・共同研究計画・情報及び出版物の交換・「国際京都学」「国際長安学」に関連する共同研究の組織等
マケレレ大学 (ウガンダ共和国) 【獣医畜産防疫学部】	H27.9.28 (R1.10.23)	部局間協定	生命環境 科学研究科	教員・研究者・学生交流、共同研究、シンポジウム開催、情報交換等
漢城大学校 (大韓民国)	H29.7.14	大学間協定	文学部	教員・研究者・学生交流、シンポジウム開催、学術情報及び出版物・資料の共有・交換等
ハノイ医科大学 (ベトナム社会主義共和国) 【予防医学・公衆衛生学部】	H27.11.19 (R2.11.18)	部局間協定	文学部	教職員・研究者・学生交流、共同研究、シンポジウム等開催、国際プログラムへの協力、学術情報及び出版物・資料の共有等
トゥール大学 (フランス共和国)	H28.6.14 (R3.6.13)	大学間協定	生命環境 科学研究科	共同研究・共同指導、大学文書や出版物の交換、研究目的での教員の交流・学生の交流
国立華僑大学 (中華人民共和国)	H28.10.12 (R3.10.11)	大学間協定	生命環境 科学研究科	教員・学生交流、研究集会を含む共同研究、情報交換等
フィリピン大学ロスバニョス校 (フィリピン共和国)	H29.7.27	大学間協定	生命環境 科学研究科	教員・研究者・学生交流、共同研究、シンポジウム開催、情報交換等
マッコリー大学 (オーストラリア連邦) 【英語語学センター】	H29.8.10 (R2.8.10)	大学間協定	文学部	両大学間の密な連携協力、学生の交流、学術情報及び資料の交換
南京林業大学 (中華人民共和国)	H29.11.6	大学間協定	生命環境 科学研究科	教員・研究者・学生交流、共同研究、シンポジウム開催、情報交換等

協定校	締結日 (直近更新日)	協定区分	交流母体	交流項目
ポートランド州立大学 (アメリカ合衆国) 【公共サービス研究実践センター】	H30.9.5 (R3.9.1)	部局間協定	京都地域 未来創造 センター	研究・調査活動の協力、教育・研究・特別人材育成プログラムの協力
プリンスオブソクラー大学 (タイ王国) 【自然資源学部】	H30.10.24	部局間協定	生命環境 科学研究科	教員・研究者・学生交流、共同研究、シンポジウム開催、情報交換等
パリ東クリティユ・ヴァル・ドゥ・マルヌ大学 (フランス共和国)	H31.3.18 (R4.3.11)	大学間協定	生命環境 科学研究科	共同研究と共同教育、大学文書と出版物の交換、研究目的での教員の交流、学生の交流

京都府立大学 国際交流協定校



10 学部・学科紹介

10-1 文学部

日本・中国文学科
日本語学・日本文学・中国文学の相互の関連を考慮しながら教育研究を行っており、和漢比較文学、また京都という立地を生かした京都文学・京都文化学などのカリキュラムも充実させている。専門教育科目は特に少人数の授業を行い、語学や文学への意欲的な取り組みを推進している。更に、ネイティブ・スピーカーによる中国語会話も開設している。
欧米言語文化学科
欧米の言語や文化について、専門分野に分かれ（イギリス言語文化、アメリカ言語文化、ドイツ言語文化、英語学・英語教育学、日英翻訳文化、国際文化交流）、教育・研究を行う。京都という地の利を活かして、京都文化・日本文化と欧米文化の比較研究を行う。また、ドイツ・オーストラリアへの海外研修制度も設けている。
歴史学科
京都という歴史的遺産に恵まれた地域性を生かして、日本史を中心としつつ、中国や韓国・朝鮮を主としたアジア史、西洋史を教育・研究の対象としている。古代から現代に至る政治・経済、宗教・思想・文化等の広範囲に及ぶ文献を扱うとともに、考古学、歴史地理学、文化情報学、建築史学などに基づく文化遺産に関する教育・研究を行っている。
和食文化学科
和食文化を、歴史学・文学・人類学・経営学・食品科学などの専門的な視点から教育・研究している。これらの座学を中心とした学びとともに、京都の地の利を活かし、食に関わる料理人や生産者、消費者が、何を見、何を感じているかを、フィールドワーク・演習・実習で学び、和食文化の学識の上に、真の教養人として、現代人の知的関心に応え、世界に日本文化を発信する人材の育成をめざしている。

10-2 公共政策学部

公共政策学科
住み良い地域や社会を作ろうという国や地方の公務員、NPO・NGO、社会貢献を行う民間企業で働く人材を養成し、未来志向型の「公共政策」を切り拓く。 そのため、京都府や市町村、経済界、NPOなどと連携した実習機会を設け、地域に学び、地域に活かす生きた政策立案と政策運営の力を身につける教育・研究を行う。
福祉社会学科
すべての人が生きがいをもち人間として尊重される福祉社会（welfare society）の実現をめざし、地域福祉の発展や人々の生涯発達に寄与する人材を育成する。具体的には、社会福祉学、社会学、教育学、心理学などの学問の問題意識・方法・成果に学び、学生自らが課題を見出してその探究に向かえるようにフィールドワークや実習を含む系統的な教育・研究を行う。福祉や医療の現場でニーズの高い国家資格（社会福祉士、精神保健福祉士）の受験資格が得られる課程を設けており、自治体職員や高等学校教員（福祉）、また家庭裁判所調査官・法務教官・保護観察官などの国家公務員も輩出している。

10-3 生命環境学部

生命分子化学科
生命分子化学科では、生命現象と生命環境を分子レベルで理解し、科学の進歩に貢献し社会が抱える課題を科学的に解決することを目的として、「化学」に重点をおいた少数精鋭の体系的な教育を行うとともに、有機化学、分子工学、生化学、物理化学、分析化学、細胞生物学、応用微生物学、バイオテクノロジーなどに関する最先端の研究を進めている。これらを通じて、広い視野と論理的思考力を有し、専門知識と先端技術を展開して社会に貢献できる人材の育成を行っている。
農学生命科学科
生命科学と農業科学の急速な発展を背景として、本学科は「ゲノムから生産・流通まで」をカバーする総合的な農学の教育・研究を行っている。具体的には、ゲノム・エピゲノムの機能解明と効率的な育種、人を含む動植物の未知機能の解明とそれを利用した物質生産や農産物の品質改良、作物栽培や家畜飼育に関する先端的な技術開発、生物間相互作用の解明とそれを基礎とした病害虫管理、生物多様性の解明・利用・保全、農業経営・流通等についての教育・研究を進めており、それらを通じて、新しい農業科学とそれに関連した生命科学分野に対応できる高度な人材の育成を行っている。
食保健学科
食保健学科では、人々の健康と栄養の課題に的確に対応し、社会に貢献する管理栄養士の養成の教育体制を構築している。すなわち、栄養学、食品科学、食品安全性学、食事学及び健康科学の5分野の研究室により、人々の健康増進とQOL（生活の質）向上を目指している。 学内での講義・実習に加え、京都府立医科大学や京都府保健所と連携した臨地実習を通して、NST（ニュートリションサポートチーム）のリーダー的病院管理栄養士や人々の健康の保持増進を担う行政栄養士、児童・生徒の食に関する指導と学校給食の運営を担う栄養教諭、および「食の安全」のスペシャリストである食品衛生管理者、食品衛生監視員などを育成している。 また、農学系の科目履修を可能にして幅広い視野を備えた食品の開発研究ができる人材の育成を行っている。
環境・情報科学科
物理学、化学、生物学、数学、情報工学の専門的知識と、さらにそれぞれの学問領域にまたがる学際的知識を持った「視野の広い理工系スペシャリスト」を育てるために、環境・情報科学科では、物理、化学、生物、情報、数学の5つの主専攻を設けている。2回生前期になると、このうち1つを選択する。また、選択した主専攻の科目以外は副専攻の科目を自由に選択でき、修得した科目に応じて主専攻だけでなく副専攻も修了したことを認定する。この主・副専攻制により「視野の広い理工系スペシャリスト」の養成を目指す。
環境デザイン学科
住居学・建築学を少人数体制で学ぶ。その中で人と環境にやさしい生活環境と生活様式を生活者の視点から考え、デザインするための専門知識を修得することを目指す。 さらにインテリア、生活文化論、ランドスケープ、環境配慮型生活など幅広く学ぶために、「住居・建築」および「インテリア・生活デザイン」の2コースを設置している。いずれのコースでも指定科目の単位を取得することで一級建築士・二級建築士の受験資格を得ることができる。
森林科学科
近年、森林の保全や木質系資源の有効利用が、地球環境問題やエネルギー問題の解決においてますます重要となってきた。本学科では、森林学から林産学にわたる森林科学の幅広い領域をカバーしたカリキュラムにより、多様な森林とそれを構成する生物の生態、森林の持つ木質資源の生産、水資源の涵養、土砂災害の防止、環境保全など、森林の多面的な機能について学ぶことができる講義等で修得した専門知識を、実験・実習などを交えて、実際の森林管理や木質資源の利用にどのように活かすのかを学ぶ。これらを通じて、専門知識に基づいた科学的能力や高い倫理観を備えた高度な技術者・専門家を育成することを目標としている。

1 1 大学院紹介

1 1-1 文学研究科

専攻	専 門 種 目	研 究 内 容
国文学 中国文学	日 本 語 学	上代から現代にいたる日本語の文法・語彙・音韻・表記などを中心とした各分野の共時的・通時的研究。
	日 本 文 学	上代から近代におよぶ日本文学の古典的作品を対象とする文献学的考証、訓詁注釈、また文学論的・文学史的研究。作家を対象とする伝記的考証、作家論的研究。
	中 国 文 学	先秦から近現代におよぶ中国文学作品を対象とする文献学的考証、訓詁注釈、また文学論的・文学史的研究、および作家を対象とする伝記的考証、作家論的研究。中国古典文学と日本古典文学の比較文学的研究、また日本漢文学の作家論的・作品論的研究。
英語 英米文学	英 文 学	エリザベス朝から現代に至る英文学を、欧米言語文化全体を視野に入れて研究する。
	アメリカ文学	17世紀から現代に至るアメリカ文学を、欧米言語文化全体を視野に入れて研究する。
	英 語 学	英語学、英語教育学、翻訳学を、欧米言語文化全体を視野に入れて研究する。
	日英文化交流	ヴィクトリア朝から現代にいたる日英文化交流を、欧米言語文化全体を視野に入れて研究する。
史	日本史・日本文化史	古代から現代に至る日本の歴史と文化に関する研究を行う。
	東洋史・東洋文化史	古代から現代に至る中国や韓国・朝鮮を中心とするアジアの歴史と文化に関する研究を行う。
	西洋史・西洋文化史	古代から現代に至る西洋の歴史と文化に関する研究を行う。
学	文化遺産学	文化遺産の調査・研究、保存・活用、情報化などの課題について、考古学、歴史地理学、文化情報学、建築史学の立場から研究を行う。

1 1-2 公共政策学研究科

専攻	専 門 種 目	研 究 内 容
公共政策学	政策デザイン	良い政策・悪い政策とはいかなるものかの解明
	政治評価	良い政策をデザインし、悪い政策を終了させる科学とアートの探求
	公共政策 政治過程、政策文化	政策の開始から終了に至る政策展開における行政進展の研究 国際比較による政策文化の解明
	行政学 政治学	日本及びフランスの公務員制度の比較研究、フランス自治体政策パフォーマンスに関する研究
	政治行動論 実験政治学	フェイクニュースが有権者の政治意識・行動に与える影響に関する実験研究、自然言語処理技術を用いた SNS 上における政治的デマの構造の分析、若年層の政治意識・行動のメカニズムに関する実証研究
	労働法	多様な働き方に関する研究、特に兼業・副業といった柔軟な働き方に関する研究
	契約法	契約当事者の構造的格差と実効的私的自治に関する研究 アメリカ契約法、国際取引法を対象とした比較法研究
	行政法	損失補償の要否基準に関する日米比較 アメリカの土地利用規制、特に一時的規制の研究
	家族法	親の関係破綻時における子の利益確保のための家族法制に関する研究、イギリスおよびドイツの親子法を中心とした比較法研究
	財政学 金融論	公共債市場、特に地方債市場を対象とする、定性的・定量的分析 金融市場における、財政の論理と市場の論理の対立と調和に関する研究
医療経済学 医療経営学 社会保障論	医療の機能分化と統合化に関する研究、医療モール・マネジメントに関する研究、医療アクセス保障に関する研究、医療の情報化・地域医療ネットワーク政策評価に関する研究	

公共政策学	財政学、地方財政論 環境経済学	地方環境税を中心とする税財政システムのグリーン化に関する研究 交通まちづくりと持続可能な都市交通経営に関する研究 北米のカーボンプライシング設計論に関する研究
	農業経済学 食料・農業・ 農村政策	農地流動化の経済分析と農地制度・政策の研究、農山村の地域社会維持に関する研究、農商工連携・六次産業化の研究
福祉社会学	社会保障論 社会福祉論	社会保障に関する歴史・理論研究 生活課題の解決に向けた社会政策の機能に関する研究
	社会福祉学 ソーシャルワーク論	ソーシャルワーク支援過程研究、ソーシャルワーク実践教育研究
	精神保健福祉論	精神科医療における患者の権利擁護に関する研究、精神科領域におけるソーシャルワーク実践に関する研究（物質使用障害者とその家族の支援プログラム）
	障害学 家族社会学	障害政策、障害者家族に関する社会調査と分析
	社会的養護 児童家庭福祉論	日英の里親制度に関する研究、里親（子）に関する研究および里親支援の現状と課題に関する研究
	環境社会学 社会学理論	地域ボランティア・NPO および歴史的環境保全に関する環境社会学的研究、シカゴ学派を中心とするアメリカ社会学史研究
	社会病理学 地域福祉論	社会的排除の形成・継続の機制に関する事例分析と方法論研究、社会病理学の理論研究、当事者のニーズに寄り添う地域福祉のあり方に関する事例研究
	教育制度論 職業教育学	青年期の職業教育に関する研究。専門学校・専門高校における職業教育および多様な青年の発達を保障する学校制度に関する研究
	教育方法学 生活教育論	「子どもの貧困」と学校教育、学習支援活動 福祉教育・ボランティア学習、安全教育・防災学習 近代教育方法史
	社会教育学 社会教育史	日本における公民館をはじめとする社会教育機関・施設の歴史研究、セツルメントを中心とする戦前の施設史研究
	発達心理学 保育学 障害児教育	幼児期から学童期にかけての「自己」発達と集団づくりの研究、保育事故の防止に関する発達心理学的研究
	社会心理学 組織心理学	企業帰属意識を主とするコミットメントプロセスおよび自己制御の研究 高齢者就労の社会心理学的研究
	認知心理学 知覚心理学	ワーキングメモリや注意、実行機能、多感覚相互作用に関する心理学的な実験、調査、介入研究

1 1-3 生命環境科学研究科

専攻	専門種目	研究内容
応用生命科学	植物育種学	作物の品種改良は、人口増加や気候変動に対応した食料生産のほか、生活の質の向上にも重要な役割を担っている。本研究室では、コムギ等を材料にゲノムや遺伝子情報を利用した遺伝育種的研究を行っているほか、ゲノム編集等による新たな花色・草姿の作出と有用形質の実用化研究に取り組んでいる。
	野菜花卉園芸学	野菜・花卉の栽培技術・育種技術の高度化を目指す。栄養繁殖性野菜の花成誘導技術、葉菜類の結球の制御機構、花卉の自然突然変異の高度利用技術、養液栽培や植物工場における生産の効率化および品質向上技術、トマトの栄養繁殖法など、生産に直結する課題について、生態から分子レベルまでの総合的観点から教育研究を進めている。
	果樹園芸学	安全安心で高品質な果実生産技術の確立を目指した研究を進めている。果樹園内の土壌微生物を用いた持続型栽培の促進、インドネシア・ウガンダ・ブラジルの果樹園土壌に関する研究、常緑果樹及びイチゴのポストハーベスト病害の防除、バラ科果樹の生殖機構の解明、有用形質の遺伝解析と新規果樹の育種など、国内外の果樹生産を取り巻く課題を解決するための包括的な教育研究を行っている。
	細胞工学	本研究室では、花や野菜の形作りや病気の抵抗性などを遺伝子・細胞レベルで明らかにし、より形質の優れた作物の作出に貢献することを目的としている。研究対象は農作物（ハナナ、カブ、ダイコン、茶、ニンジン、ミント、鹿ヶ谷カボチャ等）や花（サギソウ、アサガオ、シロイヌナズナ）、海藻（アカモク）やポプラ、虫こぶなど、研究目的によって多岐に渡る。植物の生存システムを分子レベルで理解するための教育研究を行う。
	資源植物学	農耕地における多様な植物資源を有効利用した持続的・安定的な農業生産システムを構築することを目的とし、特に附属農場のフィールドを活用し、作物資源の有効利用を図る研究、雑草の遺伝・生態的特性の解明に関する研究、果樹を始めとする永年性作物においては樹種の生理・生態的特性を活用した品種改良を行うとともに栽培法を確立するための基礎および応用的研究を行う。
	農業経営学	農村社会の維持と地域資源の管理手法、有機農業および環境保全型農業の経営と普及と政策、地域ブランド商品の育成、ならびにグリーンツーリズムとコミュニティビジネスの経営等について教育研究を行う。
	応用昆虫学	昆虫の系統分類学・生理生態学・進化学、害虫の生活史、天敵昆虫の利用による害虫防除、水生・半水生昆虫による環境の評価、ならびに絶滅危惧種の生態と保全について教育研究を行う。
	栄養科学	培養細胞、実験動物や健康者を対象とした静脈・経腸栄養製品の開発に関連する基礎栄養学研究、体力向上を目的とした運動栄養学的研究、さらに傷病者を対象とした臨床栄養学研究に取り組んでいる。
	食品科学	食品のテクスチャと食品の組織構造との関係、食品の加工・貯蔵中における物性変化、食品を構築している生体高分子の分子特性の解明に関する食品物性研究、ならびに食品に含まれている三次機能成分の探索とその作用機序を解明する食品機能性に関する教育研究を行なっている。
	食環境安全性学	食品や生活環境中に存在する化学物質の安全性評価及び健康障害因子の評価法の開発、その障害発生機序及び予防法に関する研究、また酸化ストレス、低酸素、低栄養などがもたらす健康障害発生機序及び予防法に関する研究、さらに細胞内寄生菌など微生物に対する宿主防御機構に関する研究を行っている。
食事科学	国内産大豆、小豆、エビイモなどの食品の調理・加工特性について、「おいしさ」をキーワードに、生産者および実需者と協同で研究を行う。また、ICT（情報通信技術）やアクティブラーニングなどの様々な教育的手法を導入しながら、栄養教育プログラムの開発を行う。	

専攻	専門種目	研究内容
応用生命科学	健康科学	ライフステージを通じた健康増進と疾病予防および改善を目的として、食生活や運動などの生活習慣及び健康状況について栄養疫学的、臨床的および分子生物学的方法等を用いた基礎的、応用的研究を行う。
	遺伝子工学	植物の環境ストレス応答の分子機構の解明、イネの種子形成の分子機構および種子貯蔵物質の合成蓄積機構の解明、植物の有用遺伝子の探索および遺伝子改変による作物の品質向上、遺伝子組換え技術を用いた有用物質生産系の開発等に関する教育研究を行う。
	植物病理学	病原微生物と植物の相互作用を解析し、植物病原菌の感染機構や植物の耐病性機構、作物保護に関する技術開発について教育研究を行う。
	植物分子生物学	地球生態系の土台を構成する植物の機能発現、及び環境との相互作用について遺伝子レベルの研究を行っている。特に、植物の形態形成、ストレス応答機構、植物と昆虫他の生物との生物間相互作用などに注目し、分子生物学、生化学、細胞生物学などの立場から研究している。また、オルガネラ機能を利用した物質生産技術、環境修復技術などの応用研究にも取り組む。
	植物ゲノム情報学	植物ゲノムの成立・維持・機能調節・進化の各メカニズムに関する教育研究を行っている。なかでも、DNA修復機構と転写メカニズムの関係や、ゲノムに含まれる遺伝子の構成の進化的変遷について、重点的な解明と情報解析技術の開発を進めている。
	植物成分化学	主に植物成分について、有機化学・有機合成化学を基盤とした手法を用いて、分子レベルで生物機能を解明する研究を展開している。糖鎖や配糖体の化学構造と生物学的機能との関連については継続的な研究を行っている。
	分子栄養学	体内代謝や機能応答の分子レベルでの解析、栄養素あるいはその代謝産物の細胞間や細胞内情報伝達への関与の仕方、食品の栄養機能特性とその応用展開について教育研究を行う。
	動物機能学	ヒトを含む動物の生体恒常性維持システムの中で、脳と各末梢臓器を繋ぐ「自律神経」の機能に着目し、自律神経を介した脳・末梢臓器連関システムと食欲・エネルギー代謝・精神調節機能について教育研究を行う。
	動物衛生学	動物（ダチョウ、ニワトリ、ウズラ、牛、豚、犬、猫）を対象として疾病の病理発生の解明やその診断法、防御法の開発を目的とする基礎的・実践的な動物・微生物バイオについての研究と教育を行う。また、病原性細菌のクォーラムセンシング機構阻害剤による多剤耐性菌の治療薬の開発や皮膚機能と皮膚常在菌との関係について教育研究を行う。
	機能分子合成化学	生命現象や環境に関わる生理活性物質や分子間相互作用の情報をもとに、有機合成化学的手法を用いて医薬品や診断薬また高機能性材料の新規開発、生命現象の解明などについて教育研究を行う。
	機能分子設計化学	超分子科学を基盤としたナノ・バイオマテリアルの開発およびボトムアップ/トップダウンの融合による生命を意識した階層性分子集積システムの開発、電場局在・発光制御とその応用に関する教育研究を行う。
	生命構造化学	生命科学研究における中心研究対象の一つであるタンパク質に関して、とくにタンパク質の構造形成や分子進化に着目し、構造・物性・機能・進化の関係を明らかにすること、さらにそれらの知見を活かした応用技術の開発を目的に教育・研究を行う。
	生命物理化学	ポストゲノムとして重要な研究課題である、タンパク質をはじめとする生体分子の構造と機能との相関解明を目指す。特に分子の柔らかさに着目しながら、立体構造解析、熱力学解析、速度論解析などにより、生命現象の解明や新機能分子の創製に取り組む。
	土壌化学	土壌の機能を化学的に解明し、その知見を土壌資源および地球環境の保全や持続的農業の確立に活用することを目的として、土壌の肥沃度と汚染リスクの評価や生物地球化学的な物質循環における土壌の役割等について教育研究を行う。
	高次細胞機能化学	チャンネルタンパク質や酵素などの生体機能タンパク質がどのように細胞機能に寄与しているかを、タンパク質化学、酵素化学、物理化学、分子生物学的手法を用いて、分子レベルで研究する。さらに細胞レベルでの生物応答の機能制御機構、シグナルネットワーク機構について研究教育を行う。

専攻	専門種目	研究内容
応用生命科学	微生物機能化学	自然界から有用な機能を持つ微生物を選び出し、その有用機能の開発・応用を目的に、好熱性細菌およびそれが生産する酵素タンパク質を中心に、さらには醸造用酵母などにもスポットをあて、生化学・分子生物学・構造生物学などの様々な手法を用いた研究・教育を行う。
	材料設計学	高機能性を有する新規な物質・材料の創製に関する研究を有機・高分子化学、無機化学、計算化学の立場から行う。機能性高分子多孔質体の開発を基とする環境浄化材料、人工土、医用デバイス、生体情報認識媒体としての応用、リン酸塩の合成と機能性、応用に関する研究、計算化学手法を用いた酵素触媒や固体金属酸化物触媒に関する研究、などについての研究を推進する。
環境科学	森林生態学	森林生態系を構成する多様な生物群と環境との間の密接な相互作用や、物質循環、エネルギー循環のシステムを解明し、持続可能な社会の構築に向けた健全な森林生態系の維持、森林資源の循環的利用に関する教育・研究を行う。
	流域保全学	山地の基本単位である流域について、地形、水系、森林資源、生物多様性といった様々な流域情報の収集・解析、土砂災害や病虫獣害被害などの森林災害の予測・軽減、さらに京都の自然および都市の歴史的景観保全や管理など、循環型社会の構築に資する教育・研究を行う。
	森林資源学	地域から地球規模にまでつながった循環型社会の構築に向けて、再生産可能資源である木質バイオマス資源に関する物性学、化学を基礎・基盤として、バイオマス変換利用およびバイオマテリアルの利活用・創成及びきのこの栽培やきのこの酵素利用に関する先端的な教育・研究を行う。
	住環境文化学	住環境の歴史・文化と住環境を取り巻く生活の諸課題に関する教育・研究を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・住居を中心とした建築・都市の歴史について、その特徴および文化的側面を明らかにするとともに、他学術分野を視野に入れた学際的研究を行う。 ・都市計画やまちづくりの視点から、より良い市街地環境や都市システムの在り方に関する研究ならびに多様な都市現象の実態解明に向けた研究を行う。 ・住まいや生活様式に関わる実証的研究ならびに住生活の向上に寄与する制度や居住政策に関する研究を行う。 ・環境配慮型生活行動の評価と促進に関する研究等、持続可能な循環型社会の形成に貢献するライフスタイルと政策に関する研究を行う。 ・都市・地域・建築に関する生活文化論的・史学的・美学的研究を行う。
	住環境計画学	都市・建築・インテリア・生活用品の計画・設計に関する教育・研究を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・建築デザインを軸として、インテリアデザイン、ランドスケープデザインなど、内部から外部までの空間を一体的な環境として捉え、具体的な設計を通して新しい空間やデザインの手法を提案する。 ・都市・インテリアを含む総合的な生活空間を視野に入れ、住み手・使い手の立場に立った建築計画に関する研究を行う。 ・少子高齢・人口減少の進展を考慮した、居住施設・福祉施設の整備・計画に関する研究を行う。 ・建築・室内空間の意匠に表れる地域性と時間性に関する研究を行う。 ・空間のデザイン手法に関する研究を行う。
住環境機構学	住環境の安全性・快適性・持続可能性の機構に関する教育・研究を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・居住者と建築・都市生活環境のより良好な関係をめざして、生気候学、生活環境・設備計画学、人体熱収支理論を基に研究を行う。 ・人と人を取り巻く環境との相互作用を対象として、環境心理学を基に視環境計画に関する研究を行う。 ・木質材料の特性を活用し建築や住宅の耐震性能を向上させるための研究を行う。 ・災害に対する居住環境の安全や、被災後の生活再建と復興に関する研究を行う。 ・都市や近郊を対象に緑地計画と景観生態に関する研究やデザイン提案を行う。 	

専攻	専門種目	研究内容
環境科学	環境応用情報学	メディア情報処理、人工知能、数理計画、データサイエンスなどの基礎研究を行い、ネットパトロールシステム、ロボット、認知症・高齢者の支援のための情報システム、情報セキュリティ、表情、音声、動作の情報解析、福祉情報システム、意志決定支援システム、ヒューマンインタフェース、などへの応用研究を行う。
	環境応用数理学	可積分系の理論研究を深化させながら、優れた数値計算アルゴリズムや交通流モデルの定式化をめざす。また、微分方程式に対する安定性解析やタイムラグ解析、フィボナッチ数がもつ美しさの探究に加え、画像処理や情報検索、ビッグデータに挑むための並列化、地域貢献のためのデータサイエンスなど、様々な研究を進めている。
	環境計測学	加速器や X 線などの量子ビームを用いた分析に関する先端計測技術の開発、およびこれらの分析技術を用いた環境中やエネルギー材料の微量元素の分布や動態の解明に関する研究を行っている。また、原子核を舞台に展開される素粒子「クォーク」のダイナミクスを、特に核力とその一般化という観点から、量子力学の数値計算を通じて研究している。

12 教員名簿等（令和4年6月1日現在）

12-1 文学部

学科	講座・学科目	教授	准教授	講師	助教	分野
日本・中国文学科	日本・中国文学講座		市村 太郎 藤本 灯			日本語学
		安達 敬子	竹島 一希 仁木 夏実			日本文学 和漢比較文学
		藤原 英城 本井 牧子				京都文学・京都文化学
		小松 謙 林 香奈				中国文学
欧米言語文化学科	欧米言語文化学講座	吉田 朱美	西谷 茉莉子			イギリス言語文化
		出口 菜摘	後藤 篤			アメリカ言語文化
		青地 伯水	横道 誠			ドイツ言語文化
		山口 美知代	細越 響子			英語学
		ラリー・ウォーカー				日英翻訳文化
	山口 エレノア			国際文化交流		
歴史学科	歴史学講座	川瀬 貴也 横内 裕人	藤本 仁文 本庄 総子			日本史・日本文化史
		中 純夫 岡本 隆司	井上 直樹			東洋史・東洋文化史
		渡邊 伸 川分 圭子	阿部 拓児			西洋史・西洋文化史
		菱田 哲郎 東 昇	岸 泰子 上杉 和央 諫早 直人			文化遺産学
和食文化学科	和食文化学講座	小林 啓治 中村 考志 佐藤 洋一郎 ハイン・マレー	平本 毅 濱崎 加奈子			和食文化学

1 2-2 公共政策学部

学科	講 座	教 授	准 教 授	講 師	助 教	備 考
公共政策学科	公共政策学	桂 明 宏 佐 藤 千 恵 窪 田 好 男 伊 藤 敦 志 川 勝 健 志	松 岡 京 美 下 村 誠 玉 井 亮 子 三 宅 裕 樹 秦 正 樹 木 戸 茜 駒 寄 忠 大	河 野 尚 子		公共政策、政策評価、 労働法、行政法、契約 法、社会政策、金融論、 財政学、地方財政、医 療経済学、政治学、農 業経済学、家族法、地 域デザイン
		中 村 佐 織 野 田 浩 資	山 野 尚 美 中 根 成 寿 朝 田 佳 尚 山 口 敬 子 村 田 隆 史			ソーシャルワーク、比 較福祉学、福祉政策、 障害者福祉、社会病 理、環境社会学、精神 保健福祉
福祉社会学科	教育・心理学	服 部 敬 子 森 下 正 修	石 田 正 浩 長 谷 川 豊 田 所 祐 史 瀧 本 知 加			教育制度、教育方法 学、生涯学習、発達心 理学、社会心理学、認 知心理学、職業教育学

1 2-3 生命環境科学研究科（生命環境学部）

専攻	教授	准教授	講 師	助 教	専門種目	学科
応用生命科学専攻	椿 一典			今吉 亜由美	機能分子合成化学	生命分子化学科
	石田 昭人	沼田 宗典			機能分子設計化学	
	高野 和文	田中 俊一			生命構造化学	
	織田 昌幸				生命物理化学	
	矢内 純太	中尾 淳			土壌化学	
		石 嵩 純男	佐野 智		高次細胞機能化学	
	渡部 邦彦		辻本 善之		微生物機能化学	
	半田 裕一	大坪 憲弘			植物育種学	農学生命科学科
		アンドレ・フルイ・カス	森本 拓也		果樹園芸学	
	西島 隆明		伊達 修一		野菜花卉園芸学	
	中尾 史郎	大島 一正			応用昆虫学	
		中村 貴子			農業経営学	
	久保 中央	武田 征士			細胞工学	
	板井 章浩	大迫 敬義			資源植物学	
	増村 威宏	森田 重人			遺伝子工学	
	津下 誠治		辻 元人		植物病理学	
	福島 敦史		佐藤 壮一郎		植物ゲノム情報学	
	川田 俊成				植物成分化学	
	亀井 康富	佐伯 徹			分子栄養学	
	岩崎 有作				動物機能学	
	宮崎 孔志			動物衛生学		
桑波田 雅士	青井 涉	小林 ゆき子		栄養科学	食保健学科	
		田代 有里		食品科学		
南山 幸子	岡 真優子			食環境安全性学		
松井 元子	吉本 優子			食事科学		
奥田 奈賀子	長幡 友実	谷口 祐一		健康科学		
細矢 憲	リトカハ 正美	斧田 宏明		材料設計学	環境・情報科学科	
佐藤 雅彦	平野 朋子	山下 博史		植物分子生物学		
	安田 啓介	関原 隆泰		環境計測学	環境デザイン学科	
田伏 正佳				環境応用情報学		
浅田 太郎	岩崎 雅史			環境応用数学		
檜谷 美恵子	松田 法子	辻 槇一郎		住環境文化学	環境デザイン学科	
山川 肇	関口 達也					
河合 慎介	奥矢 恵			住環境計画学		
河西 立雄	森田 一弥					
鈴木 健二				住環境機構学		
長野 和雄	石川 敦雄				森林科学科	
田淵 敦士	荒木 裕子					
福井 亘						
宮藤 久士	上田 正文	佐々木 尚子	糟谷 信彦	森林生態学		
隅田 明洋	平山 貴美子		中田 康隆	流域保全学		
勝山 正則	美濃羽 靖					
長島 啓子	三好 岩生					
	高濱 淳一郎					
古田 裕三	神代 圭輔			森林資源学		
	辻山 彰一					
	細谷 隆史					

12-4 客員教授（五十音順）

学部	氏名	備考
文学部	宗田 好史	京都府立大学 名誉教授
	母利 司朗	京都府立大学 名誉教授
公共政策学部	足立 幸男	京都大学大学院人間・環境学研究科 名誉教授
	増田 寛也	元 総務大臣、日本郵政代表執行社長
	山田 啓二	前 京都府知事、(公財)京都文化財団理事長
生命環境科学研究科	高原 光	京都府立大学 名誉教授
	松谷 茂	京都府立植物園 名誉園長
京都和食文化研究センター	熊倉 功夫	(一社)和食文化国民会議 名誉会長、MIHO MUSEUM 館長
	杉本 節子	(公財)奈良屋記念杉本家保存会 常務理事兼事務局長
	筒井 紘一	(一社)文化継承機構 代表理事、(一財)今日庵茶道資料館 顧問
	仲田 雅博	(学)大和学園 理事、大和学園ホスピタリティ産業振興センター長
	原田 信男	和食文化学会 会長、国士舘大学 名誉教授
	村田 吉弘	(特非)日本料理アカデミー 理事長
新自然史科学創生センター	戸部 博	京都大学 名誉教授、京都府立植物園 園長
	平塚 健一 (客員准教授)	京都府立植物園 技術課長
地域未来創造センター	奥谷 三穂	元 京都府立大学 特任教授

12-5 特任教員（五十音順）

職名	氏名	称号付与理由
特任助教	足立 和英	奨学寄附金関係プロジェクトの研究体制の充実
特任助教	伊川 有美	受託研究プロジェクトの研究体制の充実
特任教授	池田 武文	共同研究及び奨学寄附金関係プロジェクトの教育研究体制の充実
特任助教	池田 維	奨学寄付金による教育研究プロジェクトの研究体制の充実
特任講師	池田 葉月	寄付金による防災防疫教育研究体制の充実
特任教授	石丸 優	共同研究及び奨学寄附金関係プロジェクトの教育研究体制の充実
特任教授	伊藤 貴文	共同研究及び奨学寄附金関係プロジェクトの教育研究体制の充実
特任教授	岡田 達	奨学寄付金による研究体制の充実
特任教授	梶田 熙	共同研究及び奨学寄附金関係プロジェクトの教育研究体制の充実
特任教授	金山 公三	共同研究及び奨学寄附金関係プロジェクトの教育研究体制の充実
特任研究員	小林 茂樹	科学研究費補助金による研究体制の充実
特任教授	高原 光	共同研究及び奨学寄附金関係プロジェクトの教育研究体制の充実
特任講師	竹中 友里代	科研費関係プロジェクトの研究体制の充実
特任教授	田中 國介	奨学寄附金関係プロジェクトの研究体制の充実
特任講師	中嶋 智子	使途特定寄付金による研究体制の充実
特任教授	中村 治	科研費関係プロジェクトの研究体制の充実
特任助教	増田 雄太	戦略的創造研究推進事業の究明と活用技術の創出
特任教授	松原 斎樹	共同研究及び奨学寄附金関係プロジェクトの教育研究体制の充実
特任教授	松村 千鶴	キャリア関係教育及び就職支援体制の充実
特任准教授	丸山 美帆子	奨学寄附金及び科研費関係プロジェクトの研究体制の充実
特任教授	師岡 敏朗	共同研究及び奨学寄附金関係プロジェクトの教育研究体制の充実
特任准教授	柳川 靖夫	奨学寄付金による教育研究体制の充実
特任教授	山岸 常人	科研費関係プロジェクトの研究体制の充実
特任講師	山田 洋一	科研費関係プロジェクトの研究体制の充実

1 2-6 歴代学長

初代学長	園 正造	昭和 24.4.15 ~ 昭和 34.6.15
2代学長	近藤 金助	昭和 34.7.15 ~ 昭和 38.5.31
3代学長	木村 光雄	昭和 38.6.1 ~ 昭和 42.5.31
4代学長	小堀 憲	昭和 42.6.1 ~ 昭和 46.5.31
5代学長	中濱 敏雄	昭和 46.6.1 ~ 昭和 49.8.31
6代学長	田畑 茂二郎	昭和 49.9.1 ~ 昭和 55.8.31
7代学長	四手井 綱英	昭和 55.9.1 ~ 昭和 61.8.31
8代学長	門脇 禎二	昭和 61.9.1 ~ 平成 4.8.31
9代学長	廣原 盛明	平成 4.9.1 ~ 平成 10.8.31
10代学長	井口 和起	平成 10.9.1 ~ 平成 16.8.31
11代学長	竹葉 剛	平成 16.9.1 ~ 平成 23.3.31
12代学長	渡辺 信一郎	平成 23.4.1 ~ 平成 26.3.31
13代学長	築山 崇	平成 26.4.1 ~ 令和 2.3.31
14代学長	塚本 康浩	令和 2.4.1 ~

1 2-7 名誉教授

氏 名	授与年月日	氏 名	授与年月日	氏 名	授与年月日	氏 名	授与年月日
正子 朔	昭 63.4.1	齋藤 和實	平 16.4.1	永田 實	平 23.4.1	中島 正雄	令 2.4.1
笹川 満廣	平 元.4.1	田中 國介	〃 16.4.1	下村 孝	〃 23.4.1	上掛 利博	〃 2.4.1
青木 敦	〃 3.4.1	大西 正健	〃 16.4.1	井野口 孝	〃 24.4.1	寺林 敏	〃 2.4.1
高島 弘文	〃 3.4.1	井口 和起	〃 16.9.1	高原 正興	〃 24.4.1	松原 斎樹	〃 2.4.1
井村 哲夫	〃 4.4.1	米倉 綽	〃 17.4.1	渡辺信一郎	〃 26.4.1	高原 光	〃 2.4.1
河端 信	〃 7.4.1	大槻 耕三	〃 17.4.1	大島 和夫	〃 27.4.1	池田 武文	〃 2.4.1
平川 泰司	〃 8.4.1	水原 邦夫	〃 17.4.1	青山 公三	〃 27.4.1	久保 康之	〃 2.4.1
大手 桂二	〃 8.4.1	小島 洋一	〃 17.4.1	津崎 哲雄	〃 27.4.1	小保方潤一	〃 2.4.1
梶原 幹弘	〃 9.4.1	岩見 公和	〃 17.4.1	佐藤 茂	〃 27.4.1	椎名 隆	〃 2.4.1
志村 光廣	〃 9.4.1	山田 耕造	〃 18.4.1	大越 誠	〃 27.4.1	川瀬 光義	〃 3.4.1
榊井 幹生	〃 10.4.1	町田 玲子	〃 18.4.1	三橋 俊雄	〃 27.4.1	吉岡真佐樹	〃 3.4.1
廣原 盛明	〃 10.9.1	河村 貞枝	〃 19.4.1	上田 純一	〃 28.4.1	東 あかね	〃 3.4.1
松井 利彦	〃 11.4.1	赤阪 賢	〃 19.4.1	宮崎 猛	〃 28.4.1	大場 修	〃 3.4.1
松原 聰	〃 11.4.1	南出 隆久	〃 19.4.1	松村 和樹	〃 28.4.1	宗田 好史	〃 4.4.1
坂元 義種	〃 12.4.1	中坊 幸弘	〃 19.4.1	佐々木昇二	〃 29.4.1	母利 司朗	〃 4.4.1
水谷 民雄	〃 12.4.1	石丸 優	〃 19.4.1	櫛木 謙周	〃 29.4.1	吉富 康成	〃 4.4.1
梶田 熙	〃 12.4.1	宮嶋 邦明	〃 20.4.1	木戸 康博	〃 29.4.1		
石田 雅士	〃 12.4.1	上野 勝代	〃 20.4.1	牛田 一成	〃 29.10.1		
堀野 修	〃 13.4.1	藤目 幸擴	〃 20.4.1	赤瀬 信吾	〃 30.4.1		
松村 昴	〃 14.4.1	水野 弘之	〃 21.4.1	小澤 修司	〃 30.4.1		
瀬川 俊一	〃 14.4.1	水本 邦彦	〃 21.4.1	佐上 郁子	〃 30.4.1		
富士田邦彦	〃 15.4.1	池田 敬子	〃 22.4.1	三野 眞布	〃 30.4.1		
藤井 虔	〃 15.4.1	平井 正志	〃 22.4.1	春山 洋一	〃 30.4.1		
本多 昭一	〃 15.4.1	北條 康司	〃 22.4.1	野口 祐子	〃 31.4.1		
奥村 彰二	〃 15.4.1	湊 和也	〃 22.4.1	佐藤 仁人	〃 31.4.1		
下村 喜八	〃 16.4.1	竹葉 剛	〃 23.4.1	内田 保博	〃 31.4.1		
吉田 宏志	〃 16.4.1	岡村眞紀子	〃 23.4.1	田中 和博	〃 31.4.1		
高田 肇	〃 16.4.1	山田 秀和	〃 23.4.1	築山 崇	令 2.4.1		
齊藤 秀樹	〃 16.4.1	市原 謙一	〃 23.4.1	山崎 福之	〃 2.4.1		

【2008年10月】

(前文)

私たち教職員は、本学のあるべき姿を明らかにするために、「京都府立大学の理念」を定めるとともに、この「理念」を実現するため、教育・研究・社会貢献・大学運営の4項目にわたる行動の指針を行動憲章として社会に宣言します。

私たちは、この行動憲章にもとづいて、長い文化的伝統を持つ京都の地において、本学が百十余年にわたって府民に支えられつつ学問の府として活動してきた歴史を踏まえ、学生とともに、これからも京都府の知の拠点として、その使命を果たし続けます。そして、自主自律の精神のもと、大学人としての自覚を持ち、豊かな知性と教養、高い専門能力と倫理的判断力を備えた人材を育成し、高度で独創的な研究を推進することによって、自然との共生をはかりながら、地域社会の発展と府民生活の向上、さらには人類の幸福に貢献します。

教育

1 すぐれた人材の育成

私たちは、地域から地球規模にいたるさまざまな問題に自分の力で対処することのできる、高度な知識と応用力を備えた人材を育てます。

2 教職員と学生がともに学ぶ大学

私たちは、学生とともに学ぶ主体として尊重し、学生の知的好奇心にこたえ、個々の学生に応じたきめ細かい教育を行うことにより、自ら学ぼうとする意欲を高めるように努めます。

3 分野にとらわれない幅広い教育の推進

私たちは、専門分野に限定されない幅広い教育を行い、学生が豊かな知性と教養を身につける手助けをします。

4 個性的で高いレベルの専門教育の推進

私たちは、学生が十分に理解できるよう指導に配慮した上で、常に高いレベルを維持しつつ、他では得がたい個性的な専門教育を行います。

5 最高水準の大学院教育

私たちは、大学院生とともに学び、研究を進めることによって、最高水準の大学院教育を行います。

研究

1 高度で独創的な研究の遂行

私たちは、長期的な展望に立ち、さまざまな分野において独創的な世界最高水準の研究を推進すると同時に、人文科学・社会科学・自然科学の各分野にわたる研究の調和的発展をめざします。

2 地域に根ざした研究の推進

私たちは、研究の素材を積極的に地域に求めながら、人びとの知的好奇心から生活の向上、文化や産業の発展にいたるさまざまなニーズにこたえる研究を推進します。

3 自主的で倫理性の高い研究の推進

私たちは、学問の場としての大学にふさわしい自由な発想と高い倫理性、豊かな人間性をもって、地域から地球規模にいたるさまざまな問題の解決をめざす研究を推進します。

社会貢献

1 すぐれた人材の育成による社会への貢献

私たちは、さまざまな分野で活躍することができる能力的・人格的にすぐれた人材を育成することによって、地域及び国際社会の発展に貢献します。

2 地域社会への貢献

私たちは、本学における教育や研究の成果を京都府内外の諸地域に還元することによって、地域の発展と生活の向上に積極的に貢献します。特に、京都府を中心とする地域課題にこたえる調査・研究を重点的に行い、また、生涯学習などを推進して、京都府民のニーズに積極的にこたえます。

3 国際社会への貢献

私たちは、海外の大学などと教育・研究の交流を積極的に行い、留学生や研究者の受け入れと送り出しを推進して、世界の人びとの相互理解を深めます。

大学運営

1 人権の擁護

私たちは、本学構成員の基本的な人権を尊重して、差別・ハラスメントのない大学づくりをすすめます。

2 学問の独立の尊重

私たちは、大学における学問の自由を尊重し、いかなる権力にもおもねることなく、学問の独立の精神を貫きます。

3 対話と相互理解に基づく大学運営

私たちは、教育・研究・社会貢献・大学運営に積極的に関わる意欲を持って、本学構成員が対話を通じて合意を形成できるような民主的な運営をめざします。そのために、各種の大学運営への参画の機会を本学構成員に保障し、人事の自律性をはじめとした各組織の自治を尊重しつつ、大学運営に関する責任を果たします。

4 計画的・効果的な資源の活用

私たちは、府民から負託された資源を計画的かつ効果的に活用することにより、教育・研究を維持・発展させ、本学に課せられた社会的使命を果たします。

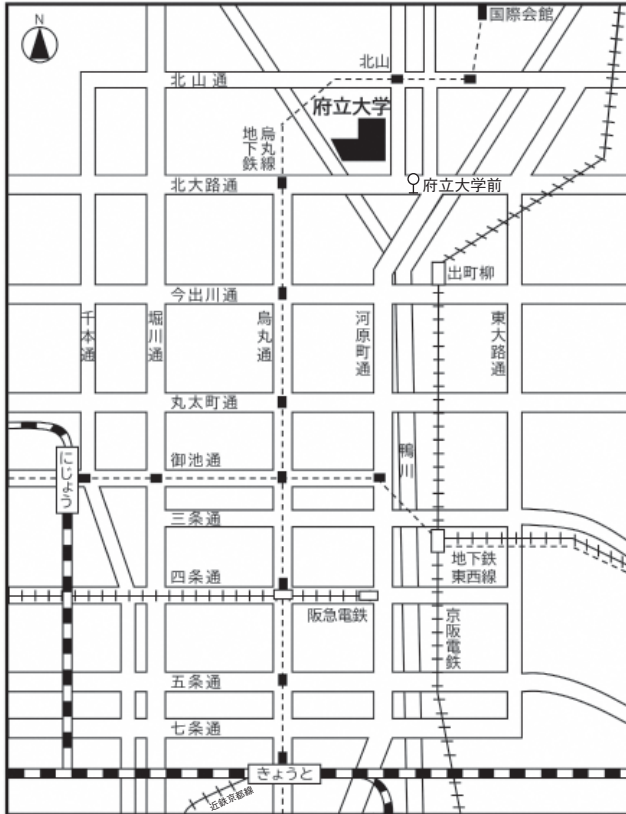
5 社会に開かれた大学

私たちは、本学の情報を公開し、主体的に自己点検と評価を行い、社会に対する説明責任を果たします。

6 教育・研究環境の整備

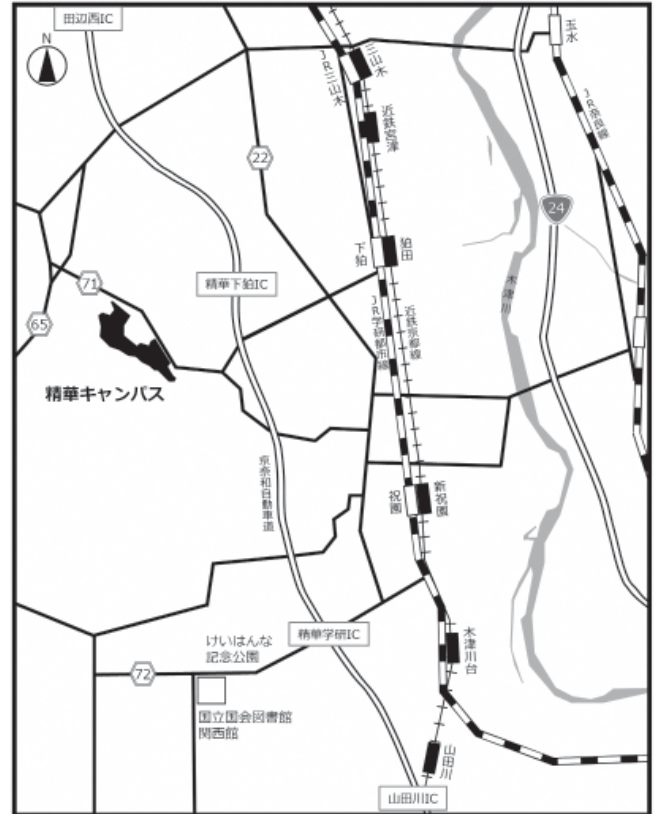
私たちは、意欲ある教員と専門性を身に付けた職員に支えられた教育・研究環境を整備します。また、本学が歴史都市京都の洛北の地に位置することも踏まえ、キャンパス環境をたえず向上させ、安心・安全で美しいキャンパスづくりをすすめます。

下鴨キャンパス



- JR京都駅、阪急烏丸駅から
地下鉄丸線「北山」下車 1番出口から南へ徒歩7分
- 京阪出町柳駅から
市バス¹「府立大学前」下車 徒歩5分
- JR二条駅から
市バス²⁰⁶「府立大学前」下車 徒歩5分

精華キャンパス



- 近鉄京都線 狛田（こまだ）駅あるいはJR学研都市線 下狛（しもこま）駅で下車、徒歩40分（3.5km）
- 近鉄京都線 新祝園（しんほうその）駅（急行停車駅）あるいは JR学研都市線 祝園（ほうその）駅で下車、タクシー10分
- 車にて京奈和自動車道 精華下狛インターで下り西へ
場所：京都府相楽郡精華町大字北稻八間小字大路
電話：0774-93-3251

京都府公立大学法人 京都府立大学

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5

☎075-703-5101

ホームページ <https://www.kpu.ac.jp/>